

第3期 高知県スポーツ推進計画
(案)

目 次

第1章 計画の概要..... 1

1. 計画策定の背景及び趣旨.....2
2. 計画の位置付け.....2
3. 計画の期間.....2

第2章 本県スポーツの現状と課題.....3

1. 地域スポーツの現状.....4
2. 競技スポーツの現状.....9
3. スポーツツーリズム・国際交流の現状.....12
4. スポーツにおけるデジタル技術の活用の現状.....13

第3章 計画の基本方針.....14

1. 第3期高知県スポーツ推進計画が目指すもの.....15
2. 目指す姿・基本理念・取り組み目標.....16

第4章 具体的な施策..... 18

1. 具体的な施策.....19
2. 重点施策(ポンチ絵).....34
3. 指標一覧.....46

第5章 計画の進捗管理.....50

1. 進捗管理.....51
2. 体制図.....51

第1章

計画の概要

第1章 計画の概要

1. 計画策定の背景及び趣旨

高知県は、人口減少や中山間地域の衰退をはじめ南海トラフ地震への備えなど、多くの課題を抱えており、県では、これまで課題解決の先進県を目指して、「経済の活性化」や「日本一の健康長寿県づくり」、「南海トラフ地震対策の抜本的強化・加速化」など5つの基本政策と、「中山間対策の充実・強化」や、「少子化対策の充実・強化と女性の活躍の場の拡大」、「文化芸術とスポーツの振興」の3つの横断的に関わる政策を全力で実行してきました。

こうした中、平成25年11月に、県民のスポーツニーズの多様化や本県のスポーツを取り巻く環境の変化に応じたスポーツ振興を目指して、「高知県スポーツ推進計画」を策定し、取り組みを進めてまいりました。さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定を受けて、平成27年3月に、高知県スポーツ推進計画の核となる取り組みの強化を目的に、「スポーツ推進プロジェクト実施計画」を策定し、高知県スポーツ推進計画の総合的な推進を図ってまいりました。

この間、国では、平成23年8月に施行された「スポーツ基本法」に基づき、平成24年3月に、今後の我が国のスポーツ施策の具体的な方向性を示す「スポーツ基本計画」が策定され、平成27年10月にはスポーツ庁を設立し、令和4年3月には「第3期スポーツ基本計画」が新たに策定されました。

本県においても、スポーツ行政をより効果的・一体的に推進するため、平成29年4月に、これまで教育委員会が所管していたスポーツ行政(学校体育関係を除く)のほか、スポーツツーリズムや障害者スポーツなどのスポーツ関連施策を知事部局に一元化し、新たに文化生活スポーツ部を設置しました。

こうした中、「高知県スポーツ推進計画」及び「スポーツ推進プロジェクト実施計画」を統合し、県民をはじめ、市町村やスポーツ関係団体などと連携・協働し、県民がスポーツを通じて健やかで心豊かに、支え合いながら生き生きと暮らすことのできる社会の実現をより確実なものとするため、平成30年度から令和4年度までの5年間を対象期間とする「第2期高知県スポーツ推進計画」を平成30年3月に策定しました。

この期間中、令和2年から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大により、スポーツ活動が大きく制限される中、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を経験し、改めてスポーツの素晴らしさを知ることとなりました。

こうしたことに加え、人口減少や少子高齢化の進行によるスポーツの地域間格差や、デジタル技術の進化によるライフスタイルの変化への対応、スポーツを通じた健康増進・地域活性化・共生社会の実現に向けた取り組みに大きな期待が集まっています。

このような第2期計画の期間中の動向を踏まえ、本県のスポーツのさらなる充実に向けて「第3期高知県スポーツ推進計画」を策定します。

2. 計画の位置付け

この計画は、スポーツ基本法第10条第1項に定める国のスポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即して定めることとされている「地方スポーツ推進計画」であり、本県のスポーツの推進を図るための基本的な方向性を示すものです。

3. 計画の期間

令和5(2023)年度から令和9(2027)年度までの5年間とします。

第2章

本県スポーツの現状と課題

■子どものスポーツ

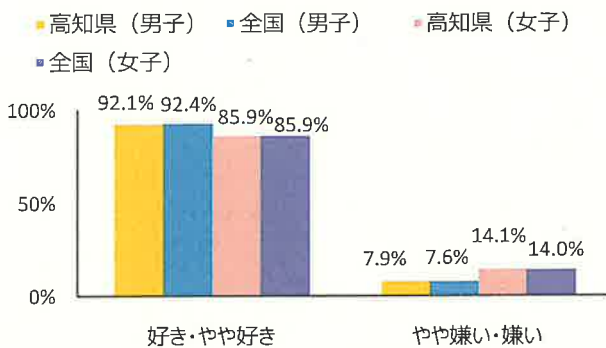
【現状・課題】

- 運動やスポーツが好きな子どもの割合は男女とも全国よりは少し高いが、男子よりも女子の割合が低い。
- 小・中学校男女ともに体力合計点が全国平均を上回っている。全国順位は、小学校男子が12位、小学校女子が17位、中学校女子が18位となり、それぞれ過去最高で、中学校男子は26位となっている。
- 1週間の総運動時間が60分未満の子どもの割合は、男子よりも女子が高い。また、中学生の割合が全国と比較して高く、中学生の女子は18.2%が運動習慣が十分に定着していない。
- スポーツ少年団や運動部活動に所属する子どもが減少傾向にあり、令和3年度から令和4年度にかけての減少は顕著である。

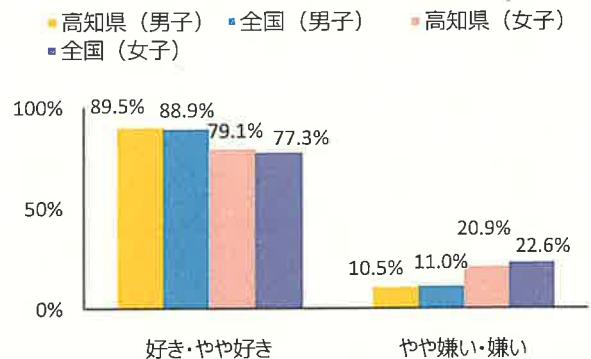
○運動やスポーツが好きな子どもの割合

※R4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

小学校（第5学年）



中学校（第2学年）



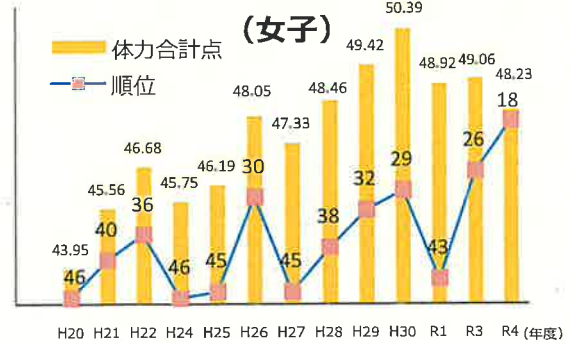
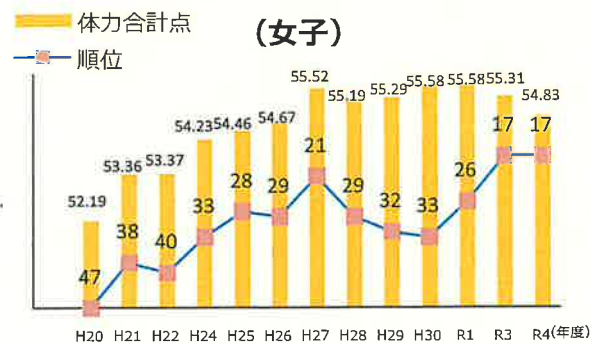
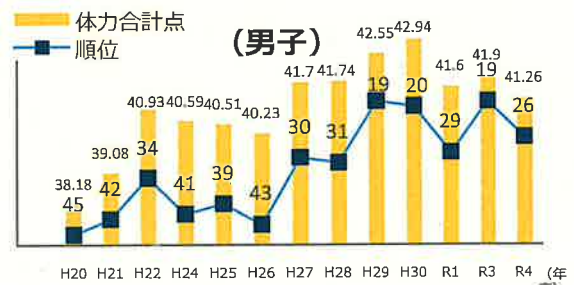
○子どもの体力

※R4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

小学校（第5学年）



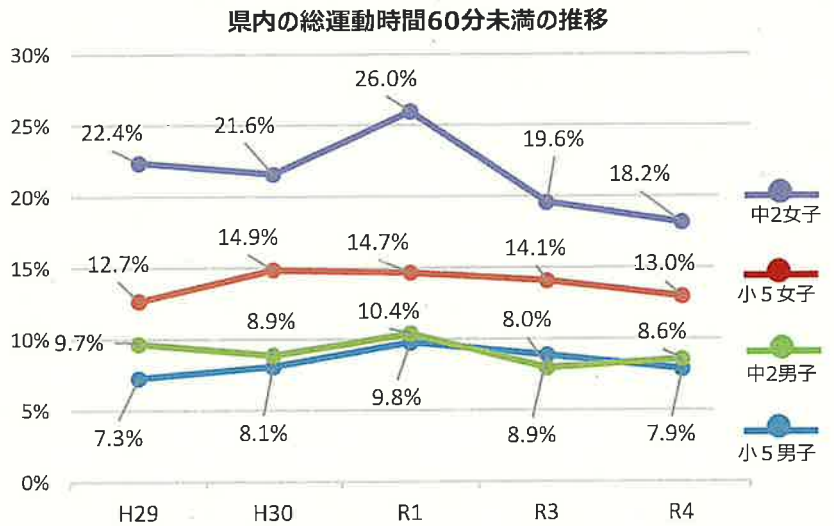
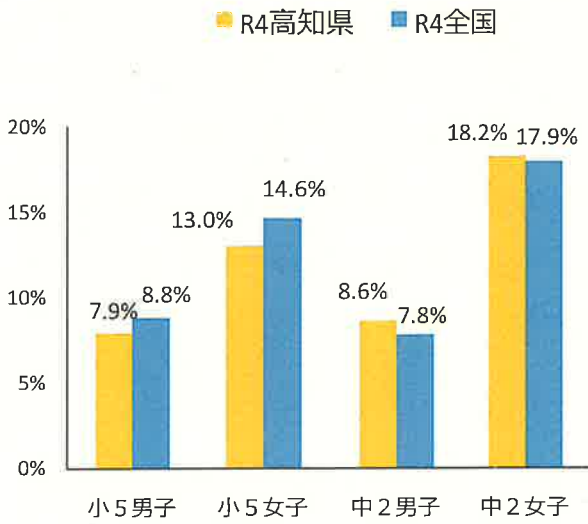
中学校（第2学年）



本県スポーツの現状と課題〔地域スポーツ〕

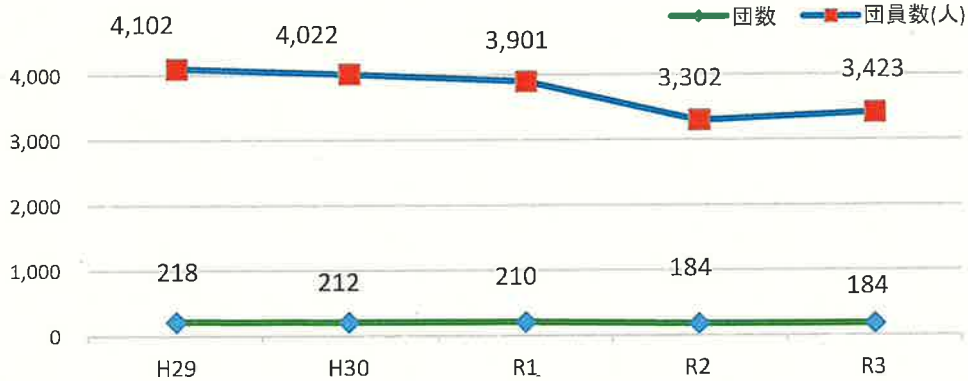
○1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合

※R4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査
 ※R2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、調査不実施



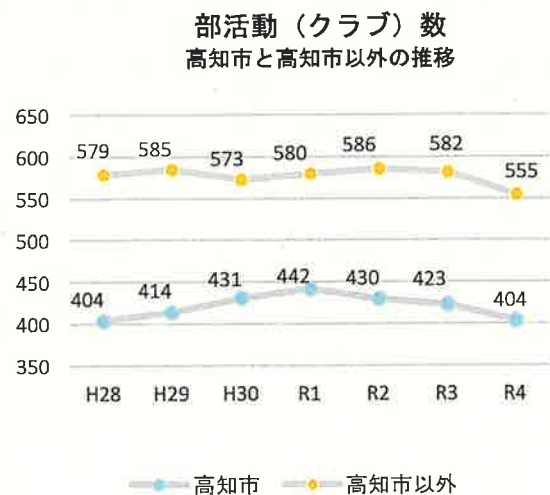
○スポーツ少年団の団数・団員数

※日本スポーツ協会HP



○中学校の運動部活動数・部員数

※R4 県スポーツ課調べ



本県スポーツの現状と課題【地域スポーツ】

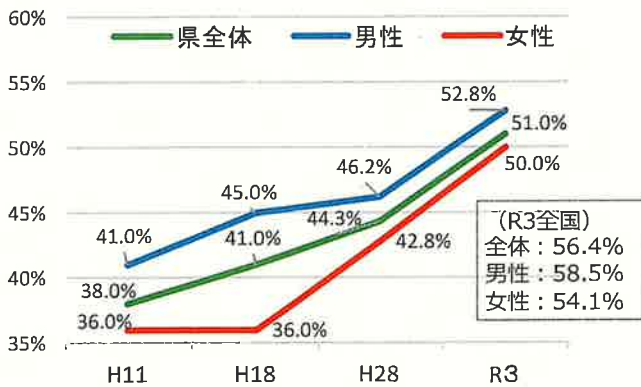
■成人のスポーツの実施状況

【現状・課題】

- 成人の週1回以上のスポーツ実施率は増加傾向にあるが、全国と比較するとまだ低く、性別や年代、地域によって差がみられる。
- スポーツのボランティア活動については、「すでに行っている」者の割合は2.2%と低く、「あまり行いたくない」、「行うつもりはない」といった否定的な意見の割合が6割を超えている。
- スポーツ観戦に関心がある者の割合は75%となっており、前回調査から増加している。
- スポーツを支える有資格者は増加傾向にあるが、さらに増やす必要がある。
- 市町村におけるスポーツ活動を支えているスポーツ推進委員は比較的年齢層が高く、人材の確保が懸念されている。
- 健康づくり無関心層や、関心はあるものの行動に踏み出せていない方への後押しが必要。
- 市町村でのスポーツ振興を進めるうえで、多分野の関係者が連携して課題やニーズに対応する体制の必要性は感じているものの、その体制がある市町村は少ない。また、多くの市町村が財源や人材の不足を課題と捉えている。

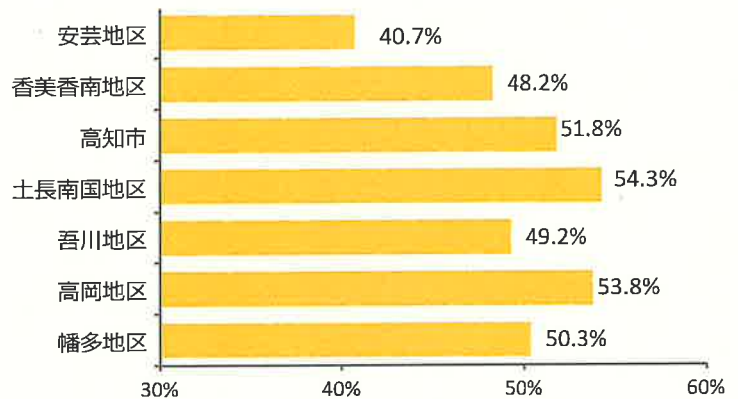
○成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率の推移

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査



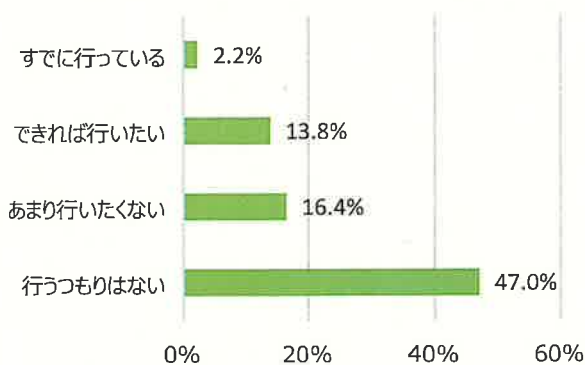
○地域別のスポーツの状況

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査



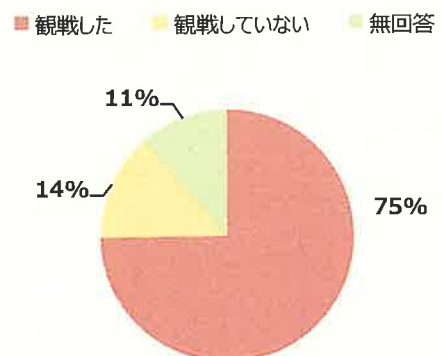
○スポーツのボランティア活動

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査



○スポーツ観戦の状況

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査



本県スポーツの現状と課題【地域スポーツ】

○主なスポーツ指導者数(有資格者)

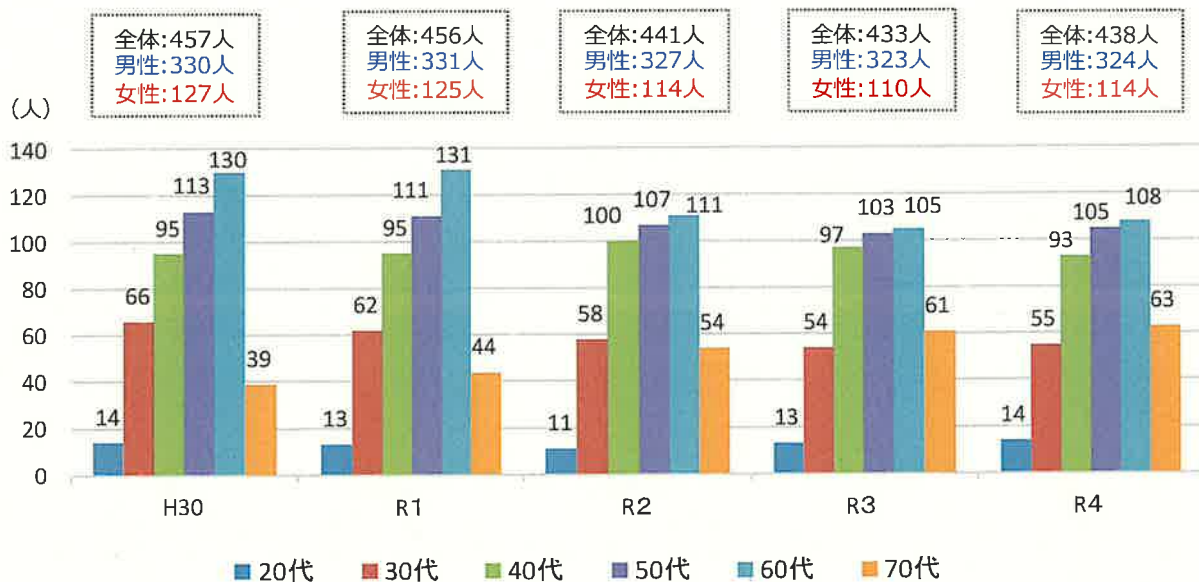
※R4 日本スポーツ協会、日本レクリエーション協会、健康・体カづくり事業財団調べ

(単位:人)

公認団体	資格	取得者数				
		H30	R1	R2	R3	R4
日本スポーツ協会	スタートコーチ	—	—	40	55	132
	コーチ	1,240	1,313	1,361	1,371	1,419
日本レクリエーション協会	インストラクター等	673	665	640	583	536
健康・体カづくり事業財団	健康運動指導士	55	55	55	56	—
	健康運動実践指導者	49	43	40	35	—

○スポーツ推進委員 年代別人数

※R4 県スポーツ課調べ



○日常生活における歩数

○市町村におけるスポーツ振興を行う上での課題

※R4 県スポーツ課調べ

(単位:市町村数)

H28	R3
<ul style="list-style-type: none"> ●20~64歳 男性:6,387歩 女性:6,277歩 ●65歳以上 男性:4,572歩 女性:4,459歩 <p>※県民健康・栄養 調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●20歳以上 男性:8,058歩 女性:6,315歩 <p>※健康パスポートアプリ利用者の1日あたり平均歩数 ※保健政策課調べ</p>

- ①子どものスポーツ環境の整備・充実 (30)
- ②課題対策を進めるためのスタッフの不足 (30)
- ③課題対策に取り組むための財源不足 (29)
- ④課題の把握や検討する場の設定などの調整役となる人材の確保 (21)
- ⑤財政的な支援だけでなく、県職員や民間事業者による側面的な支援が必要 (21)
- ⑥多分野の関係者が課題について検討・対応する体制が必要 (20)

本県スポーツの現状と課題〔地域スポーツ〕

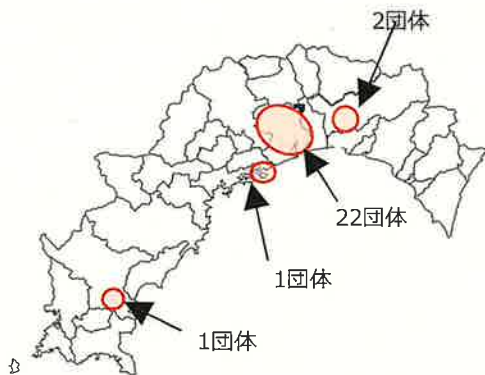
■ 障害者スポーツ

【現状・課題】

- 障害者がスポーツ活動ができる場が少なく、高知市周辺に集中している。
- 競技選手として活動している人数（中央競技団体への登録者数）は新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた時期から増加の兆しがみられるものの、まだ少ない。
- 県立障害者スポーツセンターの障害者の利用は新型コロナウイルス感染症の影響から回復の兆しがみられる。
- 障害者のスポーツ活動を支える障がい者スポーツ指導員数はまだ少ない。
- 障害者スポーツへの関心は、「関心がある」と「やや関心がある」者の割合が48.9%でまだ高いとは言えない。

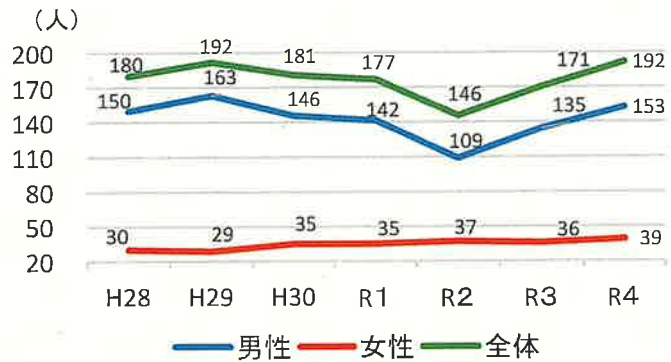
○ 障害者スポーツ団体・チーム

※R3 県立障害者スポーツセンター調べ



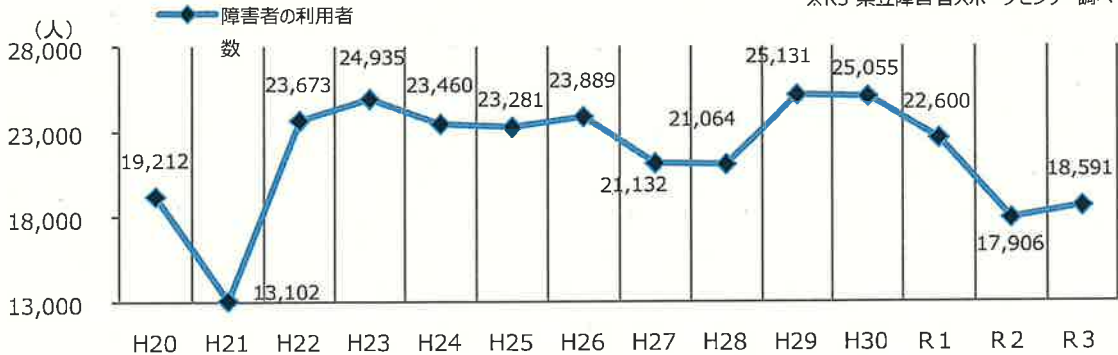
○ 中央競技団体への登録者数

※R4 県立障害者スポーツセンター調べ



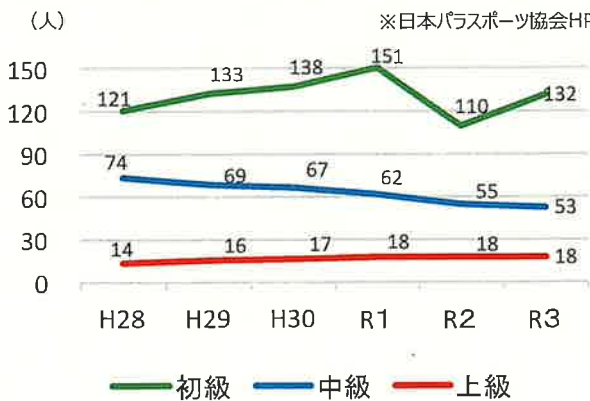
○ 県立障害者スポーツセンターの障害者の利用者数

※R3 県立障害者スポーツセンター調べ



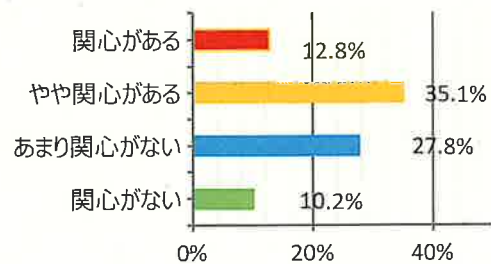
○ 県内障がい者スポーツ指導員数

※日本パラスポーツ協会HP



○ 障害者スポーツへの関心

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査



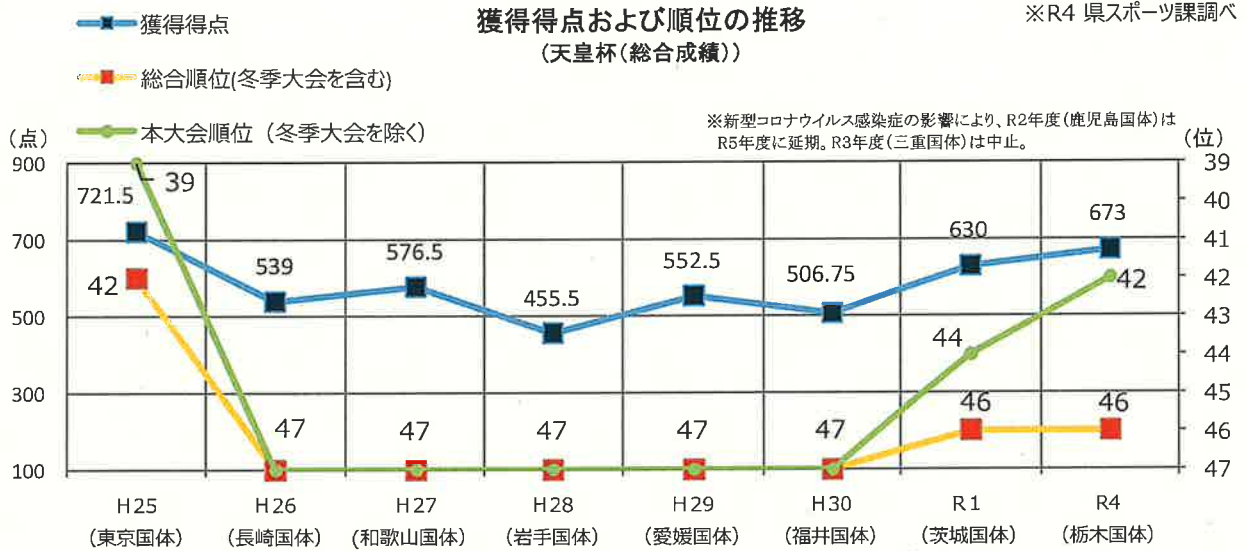
本県スポーツの現状と課題〔競技スポーツ〕

■日本代表選手及び各種大会の実績、スポーツ医科学の活用、有望選手の発掘・育成

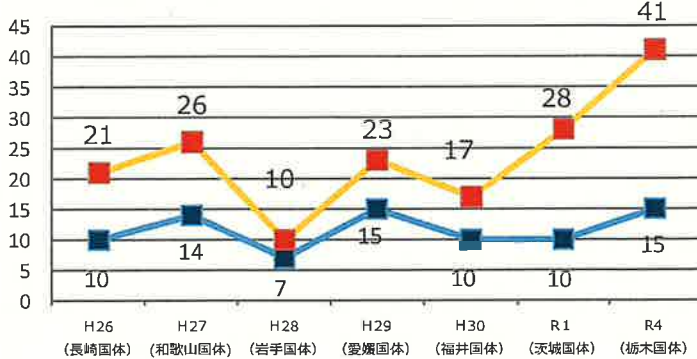
【現状・課題】

- 国民体育大会では入賞数、入賞競技数、入賞種目数ともに着実に増加傾向にあるが、総合順位は下位にある。
- 全国や世界の舞台で優秀な成績を収める選手は育ってきているが、その競技が限定されており、全体的な底上げが必要。
- 子どもの総数に対する子どもの競技人口の割合は少し増加しているが、次代を担う子どもの競技人口の数、割合ともに増やすことが必要。
- 日本スポーツ協会公認の有資格指導者は増加傾向にあるが、より質の高い指導が行われるよう有資格者を増やすことが必要。
- 障害者のスポーツ活動を支援する障がい者スポーツ指導員は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少している。
- スポーツ指導者には、スポーツの楽しみ方や興味・関心がわくような指導ができる人が求められている。
- 高知県スポーツ科学センターの活用は増えてきているが、スポーツ医科学を組織的に活用する競技団体がまだ少ない。
- 県内の有望な選手を発掘し、個々の特性に合った競技につなぐ取組が県下全域を十分にカバーできていない。また、優秀な選手や指導者を県内に受け入れる体制が整っていない。

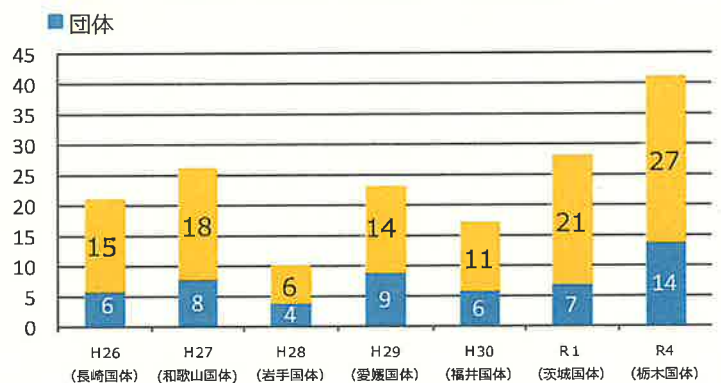
○国民体育大会の成績



入賞競技数及び種目数



個人種目と団体種目の入賞数



本県スポーツの現状と課題〔競技スポーツ〕

○日本代表選手数及び国際大会入賞数・競技数

※R4 県スポーツ課調べ

年度	代表選手数	入賞数	競技数
H29	35	20	12
H30	46	28	19
R1	31	16	8
R2	—	—	—
R3	9	7	7
R4	17	10	6

○中高校生の全国大会の入賞競技数

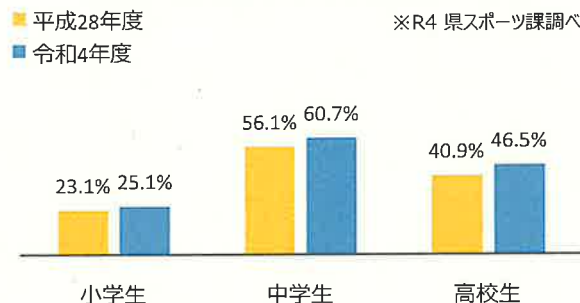
※R4 県スポーツ課調べ

年度	H29	H30	R1	R3	R4
全国中学校 体育大会	6	5	5	6	6
全国高等学校 総合体育大会 (インターハイ)	6	5	8	7	10

競技人口



児童生徒総数に対する競技人口割合



○スポーツ指導者数(有資格者)

※R4 日本スポーツ協会・日本パラスポーツ協会公表資料

(人)

公認団体	資格	取得者数				
		H30	R1	R2	R3	R4
日本スポーツ協会 ・公認指導者	スタートコーチ	—	—	—	55	132
	コーチ	1,240	1,313	1,361	1,371	1,419
日本パラスポーツ協会 ・障がい者スポーツ指導員	初級	138	151	110	132	—
	中級	67	62	55	53	—
	上級	17	18	18	18	—

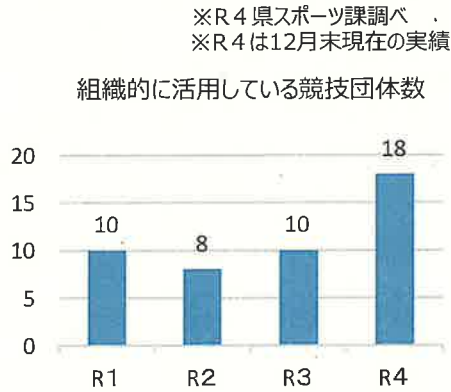
○スポーツ指導者に求めるもの

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

- ①スポーツの楽しみ方や興味・関心がわくような指導ができる人:68.3%
- ②健康・体力づくりの運動やスポーツの指導ができる人:44.0%
- ③スポーツの医学的知識や技術をスポーツの指導に活用ができる人:35.4%
- ④障害者や高齢者のスポーツの指導ができる人:29.5%
- ⑤年間を通して定期的に指導ができる人:28.5人

本県スポーツの現状と課題〔競技スポーツ〕

○高知県スポーツ科学センターの活用状況

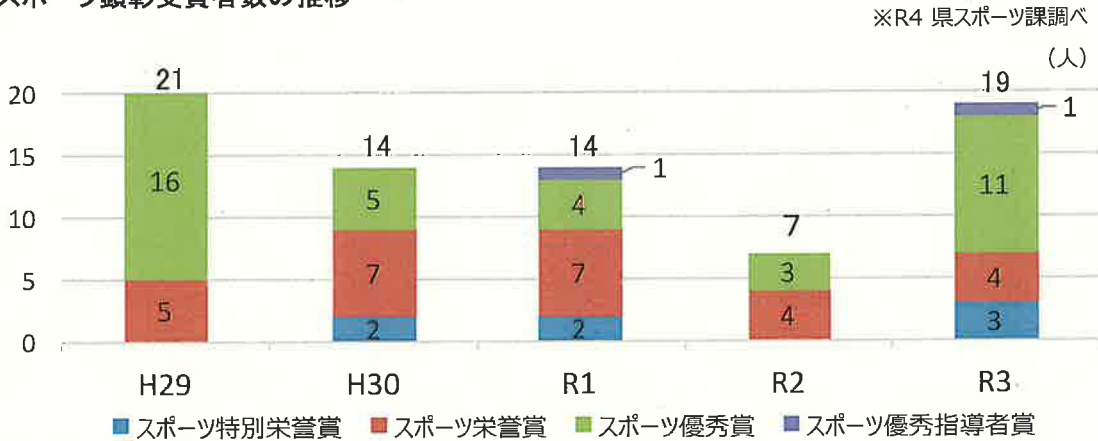


※R4 県スポーツ課調べ
※R4は12月末現在の実績

サポート内容別利用者数 (人)

サポート内容	R1	R2	R3	R4
専門体力測定	514	466	498	1,060
コンディショニング	461	713	821	2,655
メンタルトレーニング	41	106	4	218
栄養指導	168	62	122	532
パフォーマンス分析	75	169	84	239

○高知県スポーツ顕彰受賞者数の推移



- ・**スポーツ特別栄誉賞**：オリンピック、パラリンピック、デフリンピック、世界選手権で第1位から第3位までの入賞者等
- ・**スポーツ栄誉賞**：上記以外の国際大会で第1位から第3位までの入賞者等
- ・**スポーツ優秀賞**：国民体育大会等の全国大会で第1位となった者
- ・**スポーツ優秀指導者賞**：特別栄誉賞受賞者の指導に特に貢献があった者

○タレント発掘・育成事業の現状(高知くろしおキッズ)

※R4 県スポーツ課調べ

※高知くろしおキッズとは、様々なスポーツの分野で高知県内の将来有望なタレントを発掘し、ジュニアアスリート(小学校4年～6年)を育成するプログラム

項目	成果
修了生	H22年度からR3年度 延べ219人
H27年からの主な成績	国際大会出場者数：合計6名 主な成績： ・全国小学生陸上交流大会 女子100m優勝(大会新記録) ・女子Jr日本代表(ハンドボール) ・女子レスリング全日本Jrオリンピック優勝 ・男子フェンシング(サーブル)インターハイ入賞・卓球国際大会Jrベスト8等
競技種目の転向等	毎年10%程度が種目転向や本事業を通じて競技を始めた

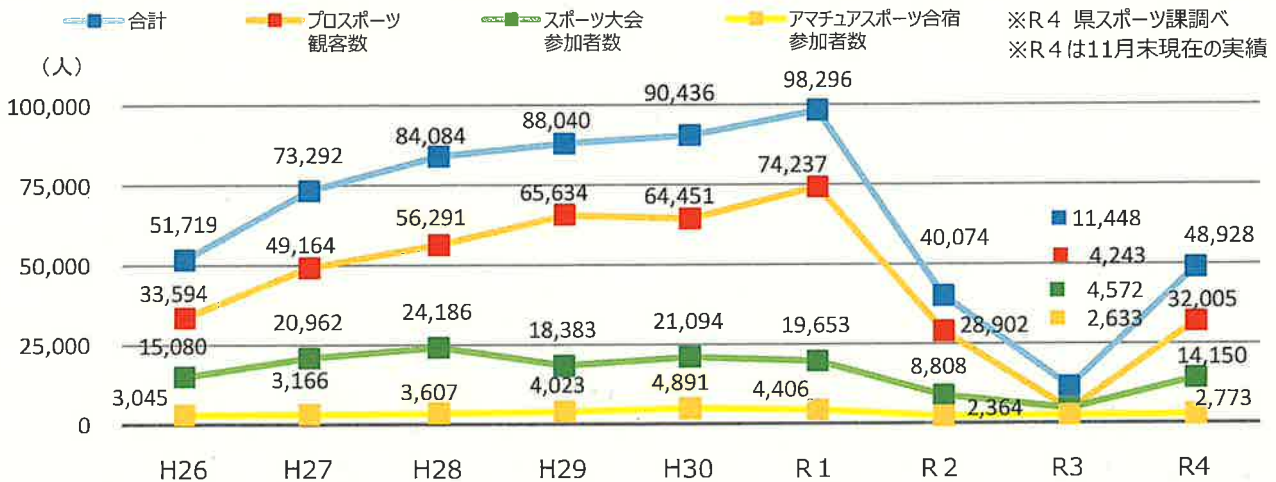
本県スポーツの現状と課題〔スポーツツーリズム・国際交流〕

■スポーツによる県外からの誘客

【現状・課題】

- 新型コロナウイルス感染症の影響でスポーツによる県外からの入込客数は大幅に減少している。
- アマチュアスポーツ合宿は関西圏からの来県が中心となっている。また、一部の競技に集中しているとともに、県内で受け入れる地域も限定的である。

○スポーツ関連イベントによる県外からの来客数



■アマチュアスポーツ合宿の受入れ状況



都府県別

合宿団体所在地	合宿団体数	合宿団体所在地	合宿団体数
大阪	27	静岡	2
兵庫	12	広島	2
京都	10	愛媛	2
奈良	6	群馬	1
東京	5	埼玉	1
愛知	4	石川	1
岡山	4	福井	1
滋賀	3	徳島	1
神奈川	2	香川	1

競技別団体数

競技	回数
サッカー	21
野球	14
テニス	10
陸上	10
バスケットボール	9
フットサル	5
バドミントン	4
水泳	3
バレーボール	2
ボート・カヌー	2
ダンス	1
ウエイトリフティング	1
卓球	1
ソフトボール	1
柔道	1

県内での主な練習施設

練習施設	市町村	団体数
土佐西南大規模公園	黒潮町	23
春野総合運動公園	高知市	14
高知市東部運動場	高知市	6
サンピアシリーズ	高知市	4
県民体育館	高知市	3
高知市総合体育館	高知市	3
高知中・高等学校	高知市	3
雲の上のプール	梶原町	3
野市体育館	香南市	3
安並運動公園	四万十市	3
その他	-	20

※R1 高知県アマチュアスポーツ合宿支援事業助成金交付団体の実績

■スポーツを通じた国際交流

【現状・課題】

○ラグビーワールドカップ2019日本大会や東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーを今後のスポーツ振興やスポーツの国際交流の活性化につなげることが必要。

■交流実績及び連携協定の締結状況

- シンガポール
 - ①スポーツシンガポールー高知県バドミントン協会
 - ②シンガポールスポーツスクールー高知県教育委員会
- チェコ共和国
 - ①チェコオリンピック委員会ー須崎市／高知県カヌー協会
 - ②チェコカヌー連盟ー高知県カヌー協会
 - ③チェコソフトボール協会ー高知県ソフトボール協会
- オランダ
 - ①オランダ自転車関係者ー宿毛市
 - ②オランダサッカー関係者ー高知県サッカー協会

※下線は連携協定を締結した交流

- オーストラリア
 - ①ソフトボールクイーンズランドー高知県ソフトボール協会／嶺北高校
- トンガ王国
 - ①トンガコミュニティ関係者ー高知県ラグビーフットボール協会
- ハンガリー
 - ①ハンガリー関係者ー土佐町／本山町／須崎市／嶺北高校

本県スポーツの現状と課題【スポーツにおけるデジタル技術の活用】

■スポーツにおけるデジタル技術の活用

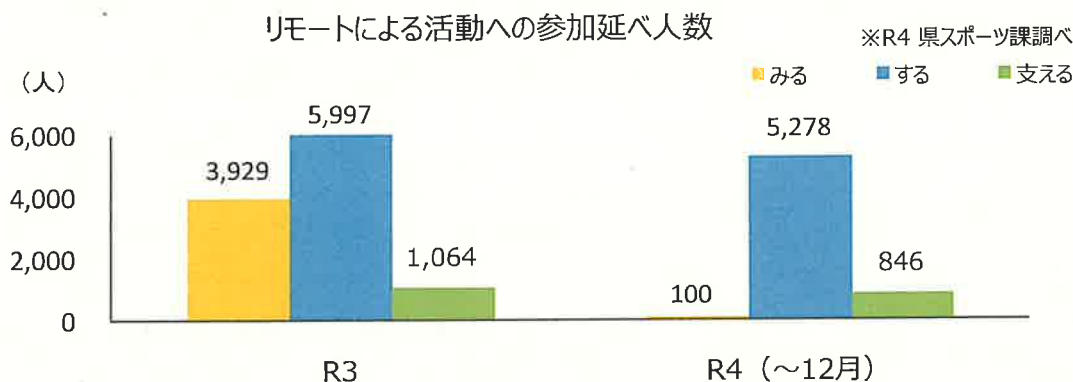
【現状・課題】

- 県立スポーツ施設や地域スポーツハブの拠点施設など16施設にリモート機器を配置し、活用数は増加傾向にあるが、活用状況に偏りがみられるとともに、より効果的に活用するための手立てが必要。
- 高知県のスポーツ関連サイトの利用者数が少ない。
- ウイズコロナやアフターコロナ社会に対応したスポーツ教室の実施などにデジタル技術の活用が求められている。

○リモートによるスポーツ活動状況

※主な活用事例

- ・スポーツ大会の動画配信
- ・遠隔地をリモートでつないだスポーツ教室
- ・SSCによるスポーツ医科学の研修



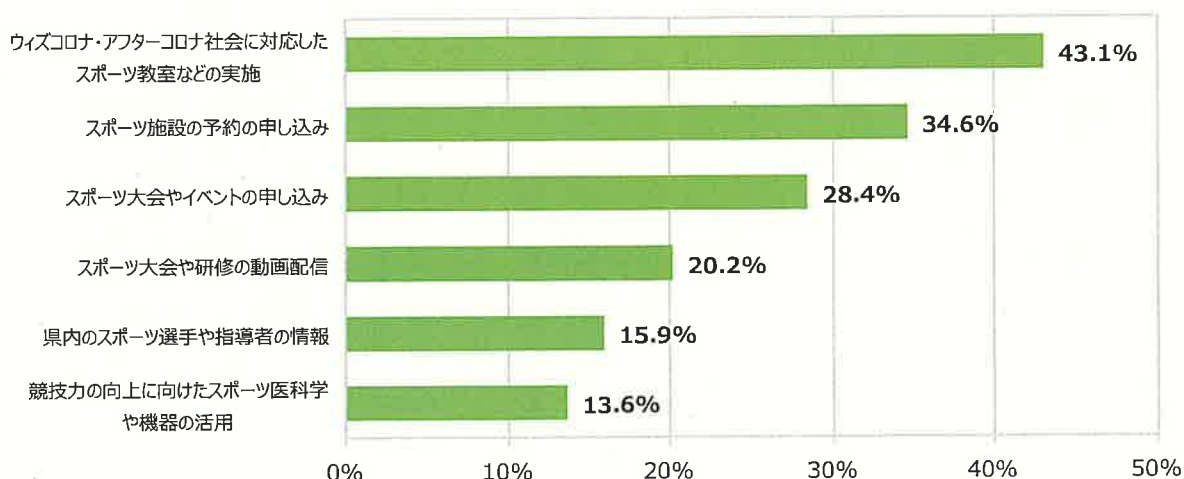
○スポーツ情報サイトの運用状況

※R3 県スポーツ課調べ

サイト名	主な機能	利用状況
こうちでスポーツ (H13～)	県立スポーツ施設の予約	サイト上での予約件数:25,198/年
スポーツNAVI (R1～)	イベントや教室、施設の検索	イベント等の更新件数:207/年 ページビュー数 :86,256/年
スポるKOCHI (R4～)	スポーツツーリズム関連の情報発信	-

○デジタル化したら良いと思うスポーツの取り組み

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査



第3章

計画の基本方針

第3章 計画の基本方針

1. 第3期高知県スポーツ推進計画が目指すもの

「第2期高知県スポーツ推進計画」においては、「スポーツ参加の拡大」、「競技力の向上」、「スポーツを通じた活力ある県づくり」の3本の柱を掲げるとともに、3本の柱に横断的に関わる施策の方向性として「オリンピック・パラリンピック等を契機としたスポーツの振興」を示し、様々な取り組みを進めてきました。

その結果、本県のスポーツの現状は、子どもの運動習慣や体力は全国平均と同程度に改善されてきましたが、子ども達がスポーツを続けられる環境はまだ十分ではありません。一方、成人のスポーツ実施率は増加傾向にあります。全国と比較するとまだ低く、年代や地域によって差がみられます。

また、障害者スポーツに関しては、身近な地域でスポーツに親しむ環境が十分でないことや、競技者として全国や世界を目指す活動は少ない状況がみられます。

他方、競技スポーツにおいては、全国や世界の舞台で活躍する選手が育ってきていますが、その競技は限定的で全体的な底上げが必要です。

さらに、スポーツによる県外からの来客数については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、令和2年から激減しています。

加えて、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を通じて得られた、県民のスポーツへの関心の高まりやホストタウン国などのつながりといったレガシーを今後の本県のスポーツ振興につなげていくことが求められています。

こうした現状を踏まえるとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大やデジタル技術の革新によるライフスタイルの変化などの社会環境の変化にも対応するため、持続可能なスポーツ環境づくりを産学官民が強く連携して取り組みを進めていく必要があります。

特に、子どものスポーツ環境は、生涯にわたるスポーツ参加や競技力の向上、健康づくりなどの土台となるものであり、大変重要と考えます。また、障害者のスポーツ環境づくりは、誰もがスポーツに安心して親しむことができることにつながるものです。こうした全ての県民のスポーツ活動の基盤となるスポーツ環境づくりに重点的に対応していくことが必要と考えます。

このような環境づくりに加えて、全ての県民が多様なスタイルでスポーツに親しむことができるようにするためには、安心・安全にスポーツに触れる機会やスポーツを通して多くの方が交流する機会を増やすことで、スポーツを楽しみと感じ、自ら進んで参加する人が増えることが重要です。

こうしたことから、「第3期高知県スポーツ推進計画」では、誰もがスポーツの楽しさや感動を得られる環境をつくるとともに、青少年の健全育成や女性のスポーツ参加促進、共生社会の実現、生きがいづくりや健康づくり、地域間・世代間などの様々な交流の促進など、スポーツを通じて全ての県民や県内全ての地域を元気にする取り組みを進め、スポーツの楽しさや感動を共有し、希望と活力ある社会の実現を目指します。

さらに、スポーツを通して多くの分野の施策推進にもつなげることを見据え、県が示す各種計画と関連付けた取り組みを推進するとともに、スポーツを通じて持続可能な世界の実現を目指すための国際目標であるSDGs(*)の達成にも貢献していきます。

本計画では、競技としてルールに則り活動する陸上競技や球技、武道等だけではなく、体操、ダンス、レクリエーションとして行われる身体活動、軽度の運動も含めて「スポーツ」と称しています。また、具体的な施策の記述に当たっては、例えば、幼児期における外遊び・運動や、壮年期・老年期における運動習慣の確立などについては、よりイメージしやすいよう、「遊び」や「運動」といった言葉を用いています。

(*)SDGs:持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)

2015年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標で17のゴールと169のターゲットで構成されている。



2. 目指す姿・基本理念・取り組み目標

<目指す姿と計画の基本理念>

目指す姿

スポーツの楽しさや感動を共有し 希望と活力ある社会の実現

スポーツにおける多様な楽しみ方や多分野と融合したスポーツ活動の増加を図り、スポーツが県内の全ての地域において県民の日常生活に浸透し、個人個人がスポーツを楽しむだけでなく、スポーツの楽しさやスポーツを通じて得られる感動を仲間や地域で共有することで、将来にわたって希望と活力ある社会の実現を目指します。

計画の基本理念

(1)誰もがスポーツの楽しさや感動を得られる環境づくりを推進する

県内すべての地域において、年齢、性別、障害の有無等に関わらず、誰もがスポーツによって「楽しさ」や「感動」を得られるよう、身近な地域で安心・安全に多様なスタイルでスポーツに親しむことができるとともに競技者や指導者が全国や世界を目指すことができる環境づくりを進めます。

(2)スポーツを通じて全ての県民や地域を元気にする

楽しさや感動が得られる多様なスポーツ活動を通じて、青少年の健全育成や共生社会の実現、生きがいづくりや健康づくり、地域間・世代間などの様々な交流の促進による地域の活性化など幅広い分野にスポーツの効果をつなげることを目指して、県民や地域を元気にする取り組みを進めます。

<取り組み目標>

目指す姿と計画の基本理念に基づき、以下の3本柱の取り組み目標を定め、強化の対策を推進します。

施策の柱① スポーツ参加の拡大

**運動やスポーツが好きな子どもを増やす
全ての地域で多様なスポーツ参加を拡大する**

主な
目標

- 運動が好きな子どもの割合**R4から5ポイント増**
- 成人の週1回以上のスポーツ実施率**65%**
- 障害者が活動できるチームや団体数**36**

将来を見据え、運動やスポーツが好きな子どもを増やすとともに、県民の誰もが身近な地域で安心・安全にスポーツに親しむことができる機会の拡充を図り、「みる」「する」「ささえる」といった多様なスタイルで日常的にスポーツに参加する人口の増加を目指します。

施策の柱② 競技力の向上

全国や世界で活躍する選手を多数輩出する

主な
目標

- 全国入賞や国際大会に出場する選手・団体**100**
- 全国や世界を目指す障害者アスリート数**220**

有望選手の発掘や系統的・組織的な育成・強化のさらなる充実を図り、全国トップレベルの選手を数多く育成するとともに、オリンピック・パラリンピックをはじめとする世界トップレベルの大会に出場するなど、日本を代表する選手やそうした選手を支える指導者等を本県から多数輩出することを目指します。

施策の柱③ スポーツを通じた活力ある県づくり

スポーツを通じて地域や経済を活性化する

主な
目標

- スポーツによる県外からの入込客数**12万人**

世代間や地域間のスポーツによる交流人口の拡大や、スポーツによる県外からの誘客の増加を図り、健康づくりや街づくり、雇用の創出、移住促進など、地域や経済の活性化につなげます。

第4章

具体的な施策

第4章 具体的な施策

1. スポーツ参加の拡大

(1) 身近な地域でスポーツに親しめる場の拡充

【施策目標】

地域の実情に応じた子どものスポーツ環境づくりや多様な種目を体験できるスポーツ機会の提供、学校の体育授業の充実などにより、運動やスポーツが好きな子どもを増やします。

また、住民主体のスポーツ活動の推進や女性のスポーツ活動の促進、オリンピック・パラリンピックなどで注目された新たなスポーツの普及など、身近な地域でスポーツに親しめる環境づくりを行うことにより、地域ごとのスポーツ参加の拡大を図ります。

<現状・課題>

- 運動やスポーツが好きな子どもの割合は男女とも全国よりは少し高いが、男子よりも女子の割合が低い。
- 小・中学校男女ともに体力合計点が全国平均を上回っている。全国順位は、小学校男子が12位、小学校女子が17位、中学校女子が18位となり、それぞれ過去最高で、中学校男子は26位となっている。
- 1週間の総運動時間が60分未満の子どもの割合は、男子よりも女子が高い。また、中学生の割合が全国と比較して高く、中学生の女子は18.2%が運動習慣が十分に定着していない。
- スポーツ少年団や運動部活動に所属する子どもが減少傾向にあり、令和3年度から令和4年度にかけての減少は顕著である。
- 成人の週1回以上のスポーツ実施率は増加傾向にあるが、全国と比較するとまだ低く、性別や年代、地域によって差がみられる。
- スポーツ観戦に関心がある者の割合は75%となっており、前回調査から増加している。

〔具体的施策〕

①子どものスポーツ環境づくりの推進

- 県は、子どもたちが身近な地域で希望するスポーツを続けられるようにするため、新たなスポーツサークルの立ち上げや運動部活動の地域連携など、地域・学校の実情に応じた子どものスポーツ環境づくりを進めます。

また、子どものスポーツ機会の拡充に向けて、高知県スポーツコミッション等と連携し、市町村の取り組みを支援するとともに広域で連携する取り組みを行います。

【指標】・子どものスポーツ環境づくりについて関係者が連携して対応する体制をつくり取り組んでいる市町村の数 R4:0→R9:34
・広域で連携した取組が展開できているエリアの数 R4:0→R9:6

②子どもが楽しくスポーツができる機会の拡充

- 県は、スポーツの楽しさを知り、スポーツに親しむ子どもを増やすため、親子で楽しむ運動プログラムや自分の運動特性を知ることができる体力測定、多様な種目を体験できるプログラムを県内各地で提供するとともに、オリンピックやパラリンピアン、プロ選手などによる講演やスポーツ教室を実施します。
- 県は、子どものスポーツ機会を増やし、スポーツに対する意欲を高めるため、高知県スポーツ協会が行うスポーツ少年団の交流大会の充実を図る取り組みを支援します。
- 県教育委員会は、子どもの体力・運動習慣の向上を図るため、学校の体育授業の充実に取り組みます。

【指標】・マッチングプログラムの参加者数 R4:1,420人→R9:R5から前年度比10%増の累計9,000人
・子どもの体力・運動習慣の向上 小中学生の男女とも全国平均を上回る

③地域に根差した住民主体のスポーツ活動の推進

- 県は、中山間地域における住民の健康づくりや生きがいづくりに向けて、ニーズ等に応じた住民主体のスポーツ活動が広がるようにするため、高知県スポーツ協会と連携し、総合型地域スポーツクラブにおけるリモート機器を活用したスポーツ活動を支援します。あわせて、スポーツ推進委員による多世代参加型のイベント等の普及・充実に取り組む取り組みを推進します。
- 県は、スポーツの多様な楽しみ方の普及やスポーツを通じた生きがいづくり、仲間づくりを推進するため、高知県レクリエーション協会等と連携し、子どもから高齢者まで誰もが気軽に楽しむことができるレクリエーション大会などのスポーツイベントを開催します。
- 県は、団体が行うスポーツによる交流の場である「ろうれんピック」や「こうちシニアスポーツ交流大会」の開催支援、「ねんりんピック」への参加に対する支援を通じて、高齢者の健康と生きがいづくりを推進します。

【指標】 ・ 各地域のスポーツ実施率
R4と比較して全ての地域でスポーツ実施率が向上する

④女性のスポーツ活動の促進

- 県は、女性のスポーツ参加の拡大を図るため、有識者やスポーツ団体関係者等で構成する女性のスポーツ推進を検討する場を通じて効果的な取り組みを進めます。
また、女性特有のスポーツ傷害予防のためのスポーツ医科学面からのサポートや情報提供などを行います。

【指標】 ・ 女性の週1回以上のスポーツ実施率 R3:50%→R9:65%

⑤スポーツ情報の発信強化

- 県は、より多くの方が本県のスポーツを知る、スポーツに触れる、スポーツをすることにつながるため、スポーツ施設やスポーツイベント、スポーツサークルなどの県内スポーツ関連情報を発信するサイト(スポーツNAVI)と県内各地のスポーツツーリズムの情報を一元的に発信するサイト(スפורKOCCHI)を活用し、情報発信及びプロモーションを行います。

【指標】 ・ 「スポーツNAVI」のページビュー数 R4:8万→R9:11万
・ 「スפורKOCCHI」のセッション数 毎年2,400セッション以上
※ページビュー数:Webサイト内のページを閲覧した回数
※セッション数:ユーザーがWebサイトに入ってから離脱した流れを「1」とカウント

⑥新たなスポーツの推進

- 県は、多様なスポーツに親しむことができるようにするため、東京2020オリンピック・パラリンピック競技等で注目されたBMXやスケードボード等の都市型スポーツや、サーフィンなどのマリンスポーツ等の普及を図ります。

⑦スポーツ施設の整備

- 県は、誰もが身近な地域において気軽にスポーツに親しむことができるようにするため、県立のスポーツ施設の整備・充実を行うとともに、市町村が行う広域のスポーツ振興に効果をもたらす施設整備を支援します。また、県教育委員会と連携し、学校体育施設の有効活用を進めます。

(2)担い手の育成及び活動の活性化

【施策目標】

スポーツ指導者の育成やスポーツ指導者をマッチングする体制づくり、スポーツボランティアの育成、若者のスポーツ参加の拡大を図ることなどにより、地域地域でスポーツを支援する人材の育成・確保を進めます。

<現状・課題>

- スポーツを支える有資格者は増加傾向にあるが、さらに増やす必要がある。
- 市町村におけるスポーツ活動を支えているスポーツ推進委員は比較的年齢層が高く、人材の確保が懸念されている。
- スポーツのボランティア活動については、「すでに行っている」者の割合は2.2%と低く、「あまり行いたくない」、「行うつもりはない」といった否定的な意見の割合が6割を超えている。

[具体的施策]

①指導者育成及びマッチング

- 県は、スポーツ現場における指導者の確保及び指導力の向上を図るため、高知県スポーツ協会等が取り組む指導者資格の取得及び更新のための講習会の実施を支援します。
また、県教育委員会や高知県スポーツ協会、高知県スポーツコミッションなどの関係機関・団体と連携し、指導者のマッチングや研修を行う仕組みの構築及び運用を行います。

【指標】 ・ 有資格指導者の数 R9:R4から10%増

②スポーツ推進委員の活動の活性化

- 県は、スポーツ推進委員が地域スポーツの企画・調整役としてより活発に活動できるよう、スポーツ推進委員研修会の実施やスポーツ推進委員が地域のスポーツイベントなどをコーディネートする取り組みを支援します。

③スポーツボランティアの育成

- 県は、誰もが安心してスポーツに参加できる環境づくりに向けて、地域におけるスポーツボランティアの増加を図るため、スポーツイベントにおけるボランティアの核となる人材の確保・育成に取り組めます。

【指標】 ・ 育成したボランティアリーダーの数 R4:0→R9:50

④大学等と連携した若者のスポーツ参加の拡大

- 県は、将来の担い手確保を見据え、スポーツに関わる若者を増やすため、大学やスポーツ団体等と連携し、高校生や大学生がスポーツについて意見を交わす高知県スポーツサミット等を通して、スポーツイベント等の企画・運営への若者の参加促進を図ります。

【指標】 ・ スポーツサミットを通して若者から提言された取組の数
R4:0→R9:10

(3) 障害者がスポーツに親しめる環境づくり

【施策目標】

障害者が身近な地域でスポーツに親しめる環境づくりや、障害者のスポーツ活動を支援する体制の整備、障害者のスポーツ大会の誘致などにより、障害者のスポーツ参加の拡大を図ります。

<現状・課題>

- 障害者がスポーツ活動ができる場が少なく、高知市周辺に集中している。
- 競技選手として活動している人数(中央競技団体への登録者数)は新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた時期から増加の兆しがみられるものの、まだ少ない。
- 県立障害者スポーツセンターの障害者の利用は新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少している。
- 障害者のスポーツ活動を支える障がい者スポーツ指導員数はまだ少ない。
- 障害者スポーツへの関心は、「関心がある」と「やや関心がある」割合が48.9%でまだ高いとは言えない。

[具体的施策]

① 身近な地域におけるスポーツ機会の拡充

- 県は、障害者が身近な地域で安心してスポーツに参加できるようにするため、学校や総合型地域スポーツクラブ等と連携し、既存のスポーツ活動への障害者の受け入れを進めるとともに、親子で楽しめる運動プログラムのほかパラリンピアンなどによる講演やスポーツ教室を実施します。また、県立スポーツ施設等に障害者スポーツ用具を配置し、市町村やスポーツ団体等の依頼に応じて貸し出す取り組みを進めます。

【指標】 ・ 障害者がスポーツ活動をすることができる団体数 R4:26→R9:36

② 障害者スポーツの活動支援

- 県は、障害者の多様なスポーツ参加を拡充するため、高知県社会福祉協議会等と連携し、障害者スポーツセンターを核とした地域のスポーツ活動と障害当事者とのマッチングの実施、サポートする人材の育成を行います。また、障害者スポーツの情報の活用強化や障害者スポーツの理解啓発の取り組みを行います。

【指標】 ・ 障害者スポーツセンターと連携し地域の活動支援を行う体制ができているエリアの数 R4:1→R9:6

③ 全国や世界を目指す選手の育成

- 県は、全国や世界を目指して活動する選手を増やすため、優秀な実績を有する選手や全国大会を目指して活動する選手を支援するとともに、将来の有望選手を発掘し育成する取り組みを行います。

【指標】 ・ 中央競技団体への登録者 R4:192→R9:220
・ 発掘の取組により中央競技団体に登録した選手数 R4:0→R9:25

④ 障害者のスポーツ活動を支援する体制の充実

- 県は、障害者のスポーツ活動において、競技の普及や選手の登録・育成・強化、大会の運営などが組織的に展開され、障害者がより安心・安全に継続してスポーツに取り組むことができるようにするため、関係機関・団体と連携して障害者スポーツを支援する体制の充実を図ります。

⑤障害者のスポーツ大会誘致

- 県は、障害者のスポーツ参加の機運や県民の障害者スポーツへの関心を高めるため、障害者スポーツ大会やイベントの誘致を進めます。

【指標】・誘致した大会数 R4: 1 → R9: 5 (R5からの累積数)

(4)スポーツにおける安心・安全の確保

【施策目標】

子どもに関わるスポーツ指導者の指導力の向上やスポーツにおける事故・怪我を防止するための研修の拡充、スポーツ団体の適切なガバナンスの推進などにより、安心・安全にスポーツに親しむことができる環境づくりを進めます。

<現状・課題>

- スポーツ指導者には、スポーツの楽しみ方や興味・関心がわくような指導ができる人が求められている。
- ガバナンスコードの遵守に具体的に取り組んでいる団体はまだ少ない。

[具体的施策]

①子どもの発達段階等に応じたスポーツ指導の推進

- 県は、子どもがスポーツを好きになり、楽しくスポーツを続けられるようにするため、高知県スポーツコミッション等と連携し、子どものスポーツ指導にあたる地域の指導者や教員、大学生などを対象に、子どものやる気を引き出す指導の在り方等について学ぶ機会を提供します。

②スポーツ団体における適正なガバナンスの推進

- 県は、スポーツ団体において適切な組織運営が行われるようにするため、高知県スポーツ協会をはじめとするスポーツ団体と連携し、競技団体やスポーツ少年団などスポーツ団体における適切なガバナンスに基づく活動を推進します。

③スポーツにおける傷害・事故の防止

- 県は、多様なスポーツ実践において、傷害や事故をなくすため、スポーツによる傷害や事故に関する研修会等を実施します。

【指標】・研修会の参加者数 R5からR9まで毎年50名以上

(5) デジタル技術の活用

【施策目標】

中山間地域などにおけるリモート機器を活用したスポーツ活動の推進や高知県スポーツ科学センターにおけるリモートによる研修の実施、スポーツ情報サイトによる情報発信の強化などにより、スポーツにおけるデジタル技術のさらなる活用を推進します。

<現状・課題>

- 県立スポーツ施設や地域スポーツハブの拠点施設など16施設にリモート機器を配置し、活用数は増加傾向にあるが、活用状況に偏りがみられるとともに、より効果的に活用するための手立てが必要。
- 高知県のスポーツ関連サイトの利用者数が少ない。
- ウイズコロナやアフターコロナ社会に対応したスポーツ教室の実施などにデジタル技術の活用が求められている。

〔具体的施策〕

① リモートによるスポーツ活動の推進

- 県は、中山間地域におけるスポーツ参加の拡大や広域で連携する取り組みが広がるよう、総合型地域スポーツクラブ等がリモート機器を活用する取り組みを支援するとともに、大学等と連携しリモートによるスポーツ指導や研修を実施します。

また、高知県スポーツ科学センターが行うリモートによるスポーツ医科学研修やトレーニング指導等の充実を図ります。

【指標】 ・ リモートによる活動への参加者数 R4:6,730人→R9:10,840人

② スポーツ情報の発信強化【再掲】

- 県は、より多くの方が本県のスポーツを知る、スポーツに触れる、スポーツをすることにつながるため、スポーツ施設やスポーツイベント、スポーツサークルなどの県内スポーツ関連情報を発信するサイト(スポーツNAVI)と県内各地のスポーツツーリズムの情報を一元的に発信するサイト(スポるKOCHI)を活用し、情報発信及びプロモーションを行います。

【指標】 ・ 「スポーツNAVI」のページビュー数 R4:8万→R9:11万

・ 「スポるKOCHI」のセッション数 毎年2,400セッション以上

※ページビュー数:Webサイト内のページを閲覧した回数

※セッション数:ユーザーがWebサイトに入ってから離脱した流れを「1」とカウント

(6) スポーツを通じた健康増進や生きがいづくり

【施策目標】

高知家健康パスポートを活用した取り組みや中山間地域などにおける住民主体のスポーツ機会の拡充を図ることにより、スポーツを通じた健康づくりや生きがいづくりを推進します。

<現状・課題>

- 男性は平成28年と比較して歩数が増加しているが、男女とも目標値には達していない。
- 健康づくり無関心層や、関心はあるものの行動に踏み出せていない方への後押しが必要。
- 成人の週1回以上のスポーツ実施率は増加傾向にあるが、全国と比較するとまだ低く、性別や年代、地域によって差がみられる。

〔具体的施策〕

①高知家健康パスポートと連携したスポーツ参加機会の拡充

- 県は、高知家健康パスポート事業の啓発を行い、総合型地域スポーツクラブの活動拠点である運動施設の利用やスポーツイベントへの参加等による健康づくりの推進に取り組みます。また、手軽な運動として、引き続きウォーキングの普及に取り組みます。
- 県は、住民の運動習慣定着への機会の拡大を図るため、市町村や事業所との連携を強化し、高知家健康パスポート事業を活用した運動イベントの実施を促進します。
- 県は、健康づくりにおける運動の効果や重要性について、「健康づくりひとくちメモ」等、マスメディアを活用した啓発を行います。

令和4年度第3回日本一の健康長寿県構想推進会議を経た後に修正予定

【指標】 ・健康パスポートアプリDL件数 R4: ** → R9: **
・日常生活における歩数 R4: ** → R9: **

②地域に根差した住民主体のスポーツ活動の推進（再掲）

- 県は、中山間地域における住民の健康づくりや生きがいづくりに向けて、ニーズ等に応じた住民主体のスポーツ活動が広がるようにするため、高知県スポーツ協会と連携し、総合型地域スポーツクラブにおけるリモート機器を活用したスポーツ活動を支援します。あわせて、スポーツ推進委員による多世代参加型のイベント等の普及・充実を図る取り組みを推進します。
- 県は、スポーツの多様な楽しみ方の普及やスポーツを通じた生きがいづくり、仲間づくりを図るため、高知県レクリエーション協会等と連携し、子どもから高齢者まで誰もが気軽に楽しむことができるレクリエーション大会などのスポーツイベントを開催します。
- 県は、団体が行うスポーツによる交流の場である「ろうれんピック」や「こうちシニアスポーツ交流大会」の開催支援、「ねんりんピック」への参加に対する支援を通じて、高齢者の健康と生きがいづくりの推進を図ります。

【指標】 ・各地域のスポーツ実施率
R4と比較して全ての地域でスポーツ実施率が向上する

(7)産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実

【施策目標】

地域のスポーツ環境を多様な主体が連携して対応する体制づくりや機会の充実、企業による県内スポーツを支援する取り組みにより、持続可能で効果的なスポーツの推進を目指します。

<現状・課題>

- 市町村でのスポーツ振興を進めるうえで、多分野の関係者が連携して課題やニーズに対応する体制の必要性を感じているものの、その体制がある市町村は少ない。また、多くの市町村が財源や人材の不足を課題と捉えている。
- スポーツ団体や民間企業、大学、行政などが定期的に意見交換を行ったり、スポーツの課題解決のために協議する場は少ない。

〔具体的施策〕

①地域において関係者が連携する体制づくり

- 県は、地域におけるスポーツに関する課題に対して継続した取り組みが進められるようにするため、市町村における子どものスポーツ環境づくりを推進する体制づくりや、子どものスポーツ機会の拡充に向けて広域で連携する体制づくりを進めます。

【指標】 ・子どものスポーツ環境づくりについて関係者が連携して対応する体制がある市町村数 R4: 0 → R9: 34
・広域で連携した取組が展開できているエリアの数 R4: 0 → R9: 6

②多様な主体のネットワークづくり

- 県は、多様化するスポーツのニーズを捉えた新たな取り組みを促進するため、スポーツを推進する多様な主体が集い、意見交換や情報共有する場の充実を図ります。
- 県は、スポーツに関する連携協定を締結している機関や事業者、団体等との連携を強化し、本県のスポーツ振興や教育の振興などにつなげる取り組みのさらなる充実を図ります。

※連携協定の締結実績

- ・パナソニック株式会社スポーツマネジメント推進室(現:パナソニックスポーツ株式会社)
- ・大阪体育大学 ・株式会社阪神タイガース

【指標】 ・多様な主体の意見交換や情報共有する場への参加団体数が増加する
(R4: 0→R9:10)

・連携協定による活動数が増加している (R4と比較して20%増加)

③企業が県内スポーツを支援する体制づくり

- 県は、県内のスポーツ活動の充実を図るため、競技者や指導者の県内企業への受け入れなど、企業による県内スポーツへの支援を検討する場を通じた取り組みを推進します。

2. 競技力の向上

(1) 全国や世界を目指す選手の育成

【施策目標】

競技団体における計画的・組織的な選手の育成・強化の推進や有望選手の発掘・育成、スポーツ医科学サポートの充実、競技者や指導者と企業とのマッチングなどにより、全国や世界で活躍する選手を一人でも多く輩出します。

<現状・課題>

- 国民体育大会では入賞数、入賞競技数、入賞種目数ともに着実に増加傾向にあるが、総合順位は下位にある。
- 全国や世界の舞台で優秀な成績を収めている選手は育ってきているが、その競技が限定されており、全体的な底上げが必要。
- 子どもの総数に対する子どもの競技人口の割合は少し増加しているが、次代を担う子どもの競技人口の数、割合ともに増やすことが必要。
- 高知県スポーツ科学センターの活用は増えてきているが、スポーツ医科学を組織的に活用する競技団体がまだ少ない。
- 県内の有望な選手を発掘し、個々の特性に合った競技につなぐ取組が県下全域を十分にカバーできていない。また、優秀な選手や指導者を県内に受け入れる体制が整っていない。

〔具体的施策〕

①競技団体における組織的な選手育成の推進

- 県は、質の高い選手育成の取り組みが継続的に進められるよう、高知県スポーツ協会と連携し、競技団体におけるPDCAによる計画的・組織的に選手を育成・強化する取り組みを進めます。
あわせて、全高知チームによる重点強化の実施や特別強化選手を指定した有望選手の活動のさらなる充実を図ります。

②全国大会を目指す中学生・高校生の選手育成の推進

- 県及び県教育委員会は、全国大会等で入賞する中・高校生の増加を図るため、高知県中学校体育連盟を通じた中学生の選手育成活動や、競技団体における高校生の選手強化及び有望な高等学校運動部の活動のさらなる充実を図ります。

【指標】 ・全国中学校体育大会(全中)及び全国高等学校総合体育大会(IH)の入賞競技数

<全中>R4:6→R9:8 <IH>R4:10→R9:15

③競技力向上に向けたスポーツ医科学の活用

- 県は、競技団体等において科学的な根拠に基づく効果的なトレーニングや練習等が行われるように支援するとともに、スポーツ傷害の予防・軽減につなげるため、高知県スポーツ科学センターによるスポーツ医科学面から選手や指導者等をサポートする取り組みを推進します。
また、競技団体などにおいてスポーツ医科学の活用がさらに進むよう、メディカルチェックや科学的な根拠に基づいたトレーニングの重要性などについて、選手や指導者への理解啓発の取り組みを進めます。
- 競技団体がスポーツ医科学を計画的に活用できるよう、高知県スポーツ科学センターが各競技団体を計画段階からサポートする取り組みを実施するとともに、スタッフがスポーツ活動の現場に出向いて指導・助言するサポートや学校の部活動等で活用できるトレーニングメニューの提供などを行います。

【指標】 ・スポーツ医科学を組織的に活用している競技団体数

R4:20→R9:30

④有望なジュニア選手を発掘・育成する取組の推進

- 県は、有望選手を発掘し、個々の適性に応じた競技選択の幅を広げ、全国や世界で活躍する選手の輩出につなげるため、小学生を対象とした有望選手を発掘し、運動能力やスポーツに対する意識を高めるプログラムを提供する取組を実施します。

また、全国や世界を目指す障害者スポーツの有望選手を発掘・育成する取組を進めます。

【指標】 ・ 高知くろしおキッズに応募する子どもの数 R3:166→R9:200
・ 障害者スポーツの発掘事業で選抜した選手数 R4:0→R9:25

⑤選手や指導者を県内に受け入れる仕組みづくり

- 県は、優秀な選手や指導者が県内で継続して活動できるようにするため、県内企業やスポーツ団体等と連携し、競技者や指導者と企業とのマッチングを行う仕組みづくりを進めます。

⑥競技拠点施設の計画的な整備

- 県は、各競技において計画的かつ質の高い育成・強化活動が進められるよう、競技の拠点となる施設の整備を計画的に行います。

(2)担い手の育成及び活動の活性化

【施策目標】

スポーツ指導者の育成やスポーツ指導者をマッチングする体制づくり、トップコーチから学ぶ機会の提供やスポーツ医科学研修の実施などにより、競技力向上に携わるスポーツ指導者の増加や指導力の向上を図ります。

<現状・課題>

- 日本スポーツ協会公認の有資格指導者は増加傾向にあるが、より質の高い指導が行われるよう有資格者を増やすことが必要。
- 障害者のスポーツ活動を支援する障がい者スポーツ指導員は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少している。
- スポーツ指導者には、スポーツの楽しみ方や興味・関心がわくような指導ができる人が求められている。

〔具体的施策〕

①指導者育成及びマッチング〔再掲〕

- 県は、スポーツ現場における指導者の確保及び指導力の向上を図るため、高知県スポーツ協会等が取り組む指導者資格の取得及び更新のための講習会の実施を支援します。

また、県教育委員会や高知県スポーツ協会、高知県スポーツコミッションなどの関係機関・団体と連携し、指導者のマッチングや研修を行う仕組みの構築及び運用を行います。

【指標】 ・ 有資格指導者の数 R9:R4から10%増

②競技力向上に向けた県内指導者の資質向上

- 県は、県内指導者の指導力を高めるため、全高知チームにおいてトップコーチから学ぶ実践研修を推進するとともに、高知県スポーツ科学センターによるスポーツ医科学研修を実施します。

【指標】 ・ 全ての全高知チームにおいて実践研修が行われている
・ 高知県スポーツ科学センターによる研修会の参加者数 R5からR9まで毎年50名以上

(3) デジタル技術の活用

【施策目標】

各種スポーツ大会の動画の配信や大学等と連携したリモートによるスポーツ指導や研修、高知県スポーツ科学センターにおけるリモートによる研修やトレーニング指導などにより、スポーツにおけるデジタル技術のさらなる活用を推進します。

<現状・課題>

- 県立スポーツ施設や地域スポーツハブの拠点施設など16施設にリモート機器を配置し、活用数は増加傾向にあるが、活用状況に偏りがみられるとともに、より効果的に活用するための手立てが必要。
- 競技団体における、競技力向上につながるデジタル技術の活用事例は少ない。
- ウイズコロナやアフターコロナ社会に対応したスポーツ教室の実施などにデジタル技術の活用が求められている。

[具体的施策]

① 選手の育成につながるリモートの効果的な活用

- 県は、変化する社会環境や地理的ハンディがある地域においても効果的な指導等を行うことができるよう、各種スポーツ大会の動画の配信や大学等と連携したリモートによるスポーツ指導や研修を実施します。
また、高知県スポーツ科学センターが行うリモートによるスポーツ医科学研修やトレーニング指導等を推進します。

【指標】 ・ リモートによる活動への参加者数 R4:6,730人→R9:10,840人

② 選手の育成におけるデジタル技術の活用

- 県は、競技力向上に向けた練習の質的向上を図るため、競技団体において技術や戦術の向上につながるデジタル機器の活用を促進するとともに、高知県スポーツ科学センターにおけるデジタル機器のさらなる活用を進めます。

(4) 産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実

【施策目標】

高知県スポーツ科学センターと関係団体との連携強化や地域のスポーツ環境を多様な主体が連携して対応する体制づくりや機会の充実、競技者や指導者と企業とのマッチングを行う仕組みづくりの推進により、競技力の向上につながる持続可能で効果的な支援体制の構築・運用を進めます。

<現状・課題>

- 高知県スポーツ科学センターが協力を得られている関係者は限定的。
- 県内の有望な選手を発掘し、個々の特性に合った競技につなぐ取組が県下全域を十分にカバーできていない。また、優秀な選手や指導者を県内に受け入れる体制が整っていない。
- 全国や世界を目指して競技活動を行う障害者を支援する体制が十分でない。
- スポーツ団体や民間企業、大学、行政などが定期的に意見交換を行ったり、スポーツの課題解決のために協議する場は少ない。

〔具体的施策〕

①スポーツ医科学面からの支援体制の強化

- 県は、利用者のニーズに応えられるスポーツ医科学面からのサポートを行うことができるよう、高知県スポーツ科学センターと関係団体との連携・協力体制の充実を図ります。

【指標】 ・ SSCと連携する外部スタッフ数 R4:35人→R9:45人

②障害者のスポーツ活動を支援する体制の充実(再掲)

- 県は、障害者がより安心・安全に継続してスポーツに取り組むことができるよう、関係機関・団体と連携して障害者スポーツを支援する体制の充実を図ります。

③選手や指導者を県内に受け入れる仕組みづくり(再掲)

- 県は、優秀な選手や指導者が県内で継続して活動できるようにするため、県内企業やスポーツ団体等と連携し、競技者や指導者と企業とのマッチングを行う仕組みづくりを進めます。

3. スポーツを通じた活力ある県づくり

(1) スポーツを通じた地域活性化・まちづくり

【施策目標】

プロやアマチュアスポーツのキャンプ・合宿・大会の誘致や地域の特色を活かした市町村ごとのスポーツツーリズムの推進、地元プロチーム等の活動の充実などに取り組むとともに、県内各地のスポーツ情報の発信強化により、県内の交流人口の拡大や県外からの誘客の増加につなげます。

<現状・課題>

- 新型コロナウイルス感染症の影響でスポーツによる県外からの入込客数は大幅に減少している。
- アマチュアスポーツ合宿は関西圏からの来県が中心となっている。また、一部の競技に集中していると同時に、県内で受け入れる地域も限定的である。

[具体的施策]

①プロスポーツ・トップチームの誘致

- 県は、スポーツを「みる」ことにより得られる楽しさや感動などを通して、県民のスポーツに対する機運醸成を図るとともに、地域・経済の活性化につなげるため、高知県観光コンベンション協会等と連携し、プロスポーツチームのキャンプ・大会の誘致やトップリーグチームの合宿の誘致に取り組めます。

【指標】 ・ プロスポーツ・トップチームの誘致による県外からの入込客数

R4: 3.2万人 → R9: 8万人

②アマチュアスポーツ合宿の誘致

- 県は、交流人口の拡大により、本県のスポーツ振興及び地域・経済の活性化につなげるため、高知県観光コンベンション協会等と連携し、関西圏をターゲットとした誘致活動や市町村と連携した情報発信及びプロモーションによるアマチュアスポーツ合宿の誘致に取り組めます。

【指標】 ・ アマチュアスポーツ合宿の誘致による県外からの入込客数

R4: 4千人 → R9: 1万人

③地域の特色を活かしたスポーツツーリズムの推進

- 県は、地域の交流人口の拡大により、地域におけるスポーツへの機運醸成及び地域・経済の活性化につなげるため、地域の特色を活かした市町村ごとのスポーツツーリズムの取り組みの充実を図ります。

また、本県の豊かな自然環境と「ぐるっと高知サイクリングロード」を活用したサイクリングツーリズムを推進するとともに、県内各地のスポーツツーリズムの情報を一元的に発信するサイト(スポるKOCHI)を活用したスポーツ情報の発信やプロモーションを強化します。

④スポーツ大会等の開催及び誘致

- 県は、「みる」「する」「ささえる」多様なスタイルでスポーツを楽しむことにより、県民のスポーツに対する機運醸成及び地域・経済の活性化につなげるため、自然環境を活かしたスポーツ大会等の開催を促進するとともに、障害者スポーツ大会の誘致や高知龍馬マラソンの開催に取り組めます。

【指標】 ・ スポーツ大会による県外からの入込客数 R4: 1.4万人 → R9: 3万人

⑤地元プロチーム等の活動の充実を通じた地域活性化の推進

- 県は、スポーツを「みる」ことにより得られる楽しさや感動などを通して、県民のスポーツに対する関心を高めるとともに、ホーム戦における県内外の観客増につなげるため、高知ファイティングドッグスや高知ユナイテッドスポーツクラブといった地元プロチーム等の活動を支援します。

【指標】 ・ 地元プロチーム等のホーム戦の県内外からの入込客数
＜高知FD＞ R4:9,052人 →R9:1.2万人
＜高知USC＞ R4:11,490人→R9:2万人

⑥広域のスポーツ振興につながるスポーツ施設の整備

- 県は、市町村におけるスポーツ振興や本県の競技力向上につなげるため、本県の競技力向上や広域のスポーツツーリズムの活性化につながるスポーツ施設の整備を支援します。

(2)スポーツを通じた国際交流

【施策目標】

東京2020オリンピック大会のホストタウン等により関係を構築した国等との相互交流や、今後国内で実施される国際大会に出場する海外チームの事前合宿の受け入れにより、県民のスポーツに対する機運醸成と地域・経済の活性化につなげます。

＜現状・課題＞

- ラグビーWC2019や東京2020オリンピック・パラリンピックで関係を構築した複数の国とスポーツに関する連携協定を締結している。
- ラグビーワールドカップ2019日本大会や東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーを今後のスポーツ振興やスポーツの国際交流の活性化につなげることが必要。

〔具体的施策〕

①海外の国や地域とのスポーツ交流の実施

- 県は、海外の選手や指導者との交流を通して競技力向上や異文化理解促進、地方創生やまちづくりの促進を図るため、東京2020オリンピック大会のホストタウンなどの取り組みにより関係を構築した国等とスポーツを通じた相互交流を実施します。

・シンガポール ・チェコ ・オーストラリア ・オランダ ・トンガ 等

②世界大会等の事前合宿の受け入れ

- 県は、県民のスポーツに対する機運の醸成及び地域・経済の活性化につなげるため、今後国内で実施される国際大会に出場する海外チームの事前合宿の受け入れに取り組みます。

＜主なターゲット大会＞

- ・デフリンピック(令和7年/2025年/東京)
- ・アジア大会(令和8年/2026年/愛知)
- ・ワールドマスターズゲームズ(令和9年/2027年/関西)

(3) デジタル技術の活用

【施策目標】

県内のスポーツ関連情報サイトの機能強化を図り、県内外に発信強化することにより、スポーツにおけるデジタル技術のさらなる活用を推進します。

<現状・課題>

- 高知県のスポーツ関連サイトの利用者数が少ない。
- ウイズコロナやアフターコロナ社会に対応したスポーツ教室の実施などにデジタル技術の活用が求められている。

〔具体的施策〕

① スポーツ情報の発信強化（再掲）

- 県は、より多くの方が本県のスポーツを知る、スポーツに触れる、スポーツをすることにつながるため、スポーツ施設やスポーツイベント、スポーツサークルなどの県内スポーツ関連情報を発信するサイト（スポーツNAVI）と県内各地のスポーツツーリズムの情報を一元的に発信するサイト（スポるKOCHI）を活用し、情報発信及びプロモーションを行います。

【指標】 ・ 「スポーツNAVI」のページビュー数 R4: 8万→R9: 11万

・ 「スポるKOCHI」のセッション数 毎年2,400セッション以上

※ページビュー数: Webサイト内のページを閲覧した回数

※セッション数: ユーザーがWebサイトに入ってから離脱した流れを「1」とカウント

(4) 産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実

【施策目標】

市町村担当者会における情報共有や意見交換等を実施することにより、市町村と民間団体等との連携など、交流人口の拡大につながる体制の構築につなげます。

<現状・課題>

- 市町村でのスポーツ振興を進めるうえで、多分野の関係者が連携して課題やニーズに対応する体制の必要性は感じているものの、その体制がある市町村は少ない。また、多くの市町村が財源や人材の不足を課題と捉えている。
- スポーツを通じた地域活性化の取組を効果的に進めるためには多分野の関係者の連携が不可欠だが、連携状況は不十分。

〔具体的施策〕

① スポーツツーリズムに関する市町村や関係団体等との連携強化

- 県は、市町村の実情や意向に応じたスポーツツーリズムの取り組みが効果的に進められるよう、市町村担当者会における情報共有や意見交換等を実施することを通して、市町村と民間団体等との連携を強化します。

重点施策

地域における子どものスポーツ環境づくり

現状・課題

- スポーツ少年団や運動部活動に所属する子どもが減少傾向にある
- 地域によっては、子ども達がスポーツを継続できる環境が十分ではない
- 運動部活動や総合型地域スポーツクラブの加入状況は全国より低い状況にある
- 各地域において子どものスポーツ実施に繋がる取り組みが必要であるが、少子高齢化の加速に伴い地域スポーツを支える人材の不足やスポーツイベント等は減少、地域の子ども達のスポーツを取り巻く環境は厳しい
- 学校の運動部活動の地域連携や地域移行の検討が必要になっている

取組の方向性

- 子ども達が身近な地域で希望するスポーツを続けられるようにするため
 - ・新たなスポーツクラブの立ち上げや運動部活動の地域連携など、市町村における子どものスポーツ環境づくりの推進とあわせ、広域で連携する体制を構築
 - ・子どものスポーツ機会の拡充に向けて、高知県スポーツコミュニケーション等の新たなスポーツ推進体制と連携し、市町村の取組支援や広域での取組を推進

持続可能な子どものスポーツ推進施策の全体イメージ

①市町村単位の取組の充実

- 子どものスポーツ環境づくりについて、関係者が連携して対応する体制を構築
 - ・多分野の関係者からなる協議会等の設置

●運動部活動の地域連携や地域移行の検討

- ・令和5年度～7年度を改革推進期間とし、市町村毎に設置する協議会等において、地域の実情に応じた検討を実施

●あわせて、広く子どものスポーツ環境の整備・充実に向けた取組の検討・実施

【主な活動の内容】

- ・子どものスポーツ機会の空白を埋めるための環境づくり
- ・未就学児への基本的な体の動かしかし方を学ぶ機会の提供
- ・親子でスポーツを楽しむ機会の提供
- ・複数の種目を体験できる機会の提供 等

市町村毎のアクションプラン策定

民間団体等

- ③ 民間活力による効果的な活動の展開
- ④ 県版地域おこし協力隊配置による活動推進

■子供のスポーツ環境の状況

○スポーツ少年団の団数・団員数

項目	※日本スポーツ協会HP	
	H28	R4
団数	221	184
団員数	4,332人	3,423人

○中学校の運動部活動数・部員数

※県スポーツ課調べ

項目	R3	
	H28	R3
部数	404	431
部員数	5,664人	5,185人
高知市以外	5,870人	4,832人

○地域における小中学生の活動環境

※スポーツ課調べ
小・中学生とも、活動できる競技が5競技以下の市町村は全体の38.2%。また、多くの市町村において活動環境が小・中いずれかに限られている競技が見られる。

○部活動や総合型地域スポーツクラブ加入状況

(%) ※R3 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

項目	男子		女子	
	高知県	全国	高知県	全国
運動部	72.6	73.8	51.2	57.1
文化部	9.7	9.9	35.1	30.5
地域SC	9.6	18.0	7.0	10.7
未所属	12.2	8.8	12.4	10.3

②広域の取組の推進

●各地域に広域的な地域スポーツハブ※を設置

- ・県内6地域に広域的な拠点（広域スポーツハブ）を設置
- ・構成市町村の関係者（行政職員や総合型地域スポーツクラブ関係者等）からなる促進委員会を設置

イメージ



●広域スポーツハブを核としたスポーツサービスの提供

- ・複数の市町村が連携する取組の推進
- ・地域単位でのスポーツ機会の提供
- ・複数のスポーツ体験会の開催（マッチングプログラムの展開）
- ・障害児のスポーツの推進（障害者スポーツ推進プロジェクト）等

- 単一の市町村・団体等では解決が困難な課題の共有
- 広域スポーツハブに促進委員として参画

【県・市町村連携】子どものスポーツ環境を一体的に整備

- 市町村の課題等に応じた広域的な活動の提供

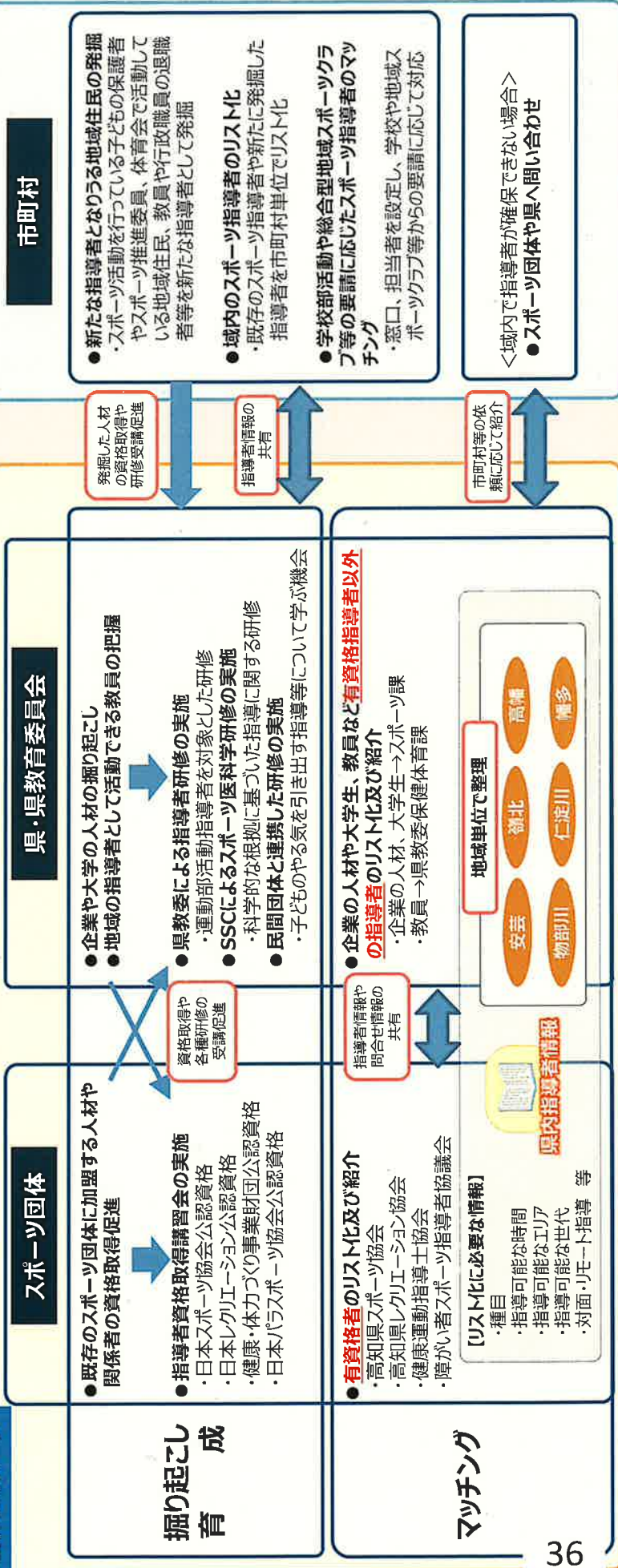
- 市町村単位の取組の支援や広域の取組の推進（効果的な助言や企画・運営補助等）
- 地域スポーツをささえる新たな人材の発掘・育成、一元的な指導者体制整備に向けた検討等

スポーツ指導者の育成及びマッチング

地域における既存のスポーツ活動の充実や学校部活動の地域移行を含めた新たな活動の展開を見据え、高知県スポーツ協会をはじめとするスポーツ団体や県教育委員会等と連携し**安定的な指導者の確保（掘り起こし・育成・マッチング）**に向けた体制づくりを行う

【掘り起こし・育成】地域住民や企業の職員、大学生等を**新たな指導者として発掘**するとともに、**指導者資格の取得促進及び各種研修会等の充実**を図る
 【供給体制の構築】地域の依頼に応じて**指導者のマッチング**を行うとともに、**効率的なマッチング体制の構築**に向け、指導者のリスト化や運用手法等を検討する

全体のイメージ



今後の展開

令和5年度

- 【掘り起こし・育成】**
- ・公認スポーツ指導者資格を取得・更新するための講習会の実施
 - ・各種研修会の実施
 - ・新たな指導者の養成に向けた検討・調査（企業・大学生・地域スポーツ団体等への意向調査）
- 【マッチング】**
- ・スポーツ団体、スポーツ課、県教委が各々にスポーツ指導者リストを作成・管理
 - ・スポーツ団体、スポーツ課、県教委の連携によりスポーツ指導者を紹介
 - ・大学等と連携したICTを活用したオンライン指導のモデル事業の実施
 - ・一元的な指導者情報の管理及びマッチングの運用について検討



令和6年度～

- 【掘り起こし】**
- ・公認スポーツ指導者資格を取得・更新するための講習会の継続実施
 - ・各種研修内容、対象者、開催地域等を見直して実施
- 【マッチング】**
- ・新たな指導者の掘り起こしの拡大
 - ・R.5年度の検討を踏まえて、見直した体制・運用方法で対応

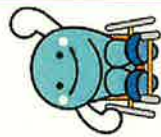
障害者がスポーツに親しめる環境づくり

現状・課題

- 障害者が活動できる場が少なく、スポーツに関する情報が障害当事者や関係者に十分に届いていない
- 全国や世界を目指して活動している障害者は増加傾向にあるものの、まだ少なく、そうした活動を支援する体制も十分でない
- 障害者スポーツに関心がある者の割合は高いとは言えず、障害者のスポーツ大会等を間近で見られる機会も少ない

取組の方向性

- 障害者が身近な地域でスポーツに親しめる機会を増やすとともに、地域における障害者の活動を支援する体制づくりを進め、県内の全ての地域において障害者のスポーツ参加の拡大を図る
- 競技力向上を目指して取り組む選手の活動を支援するとともに、将来有望な選手を発掘・育成し全国や世界を目指す選手の増加を図る
- 障害者スポーツの全国大会やトップチームの活動を間近で見られる機会を増やし、障害者スポーツの理會啓発及び氣運の醸成を図る



取組内容

■障害者スポーツの活動支援

- 障害者スポーツセンターを核として、障害者のスポーツ参加支援や情報の発信、理解啓発の取り組みを実施
- 障害者スポーツコーディネーターや地域の障がい者スポーツ指導員による地域のスポーツ活動と障害当事者とのマッチング
- 障がい者スポーツ指導員の養成講習会の実施
- 全国障害者スポーツ大会及び中四国ブロック大会への派遣
- 高知県障害者スポーツ大会の開催
- 障害者スポーツの情報の活用強化
 - ・スポーツ教室やイベント、大会情報の発信
 - ・スポーツ大会の結果の収集・発信、メディアへの情報提供
 - ・既存のチームや団体の活動の紹介
- 障害者スポーツの理解啓発
 - ・学校や障害者施設と連携した障害者スポーツの理解啓発の取組の実施



■身近な地域におけるスポーツ機会の拡充

- 障害者が身近な地域で安心してスポーツに参加できるようにするため、地域におけるスポーツ機会の提供や誰もが参加できるイベント等の開催
- 既存スポーツ活動への障害者の受入れを促進
- 学校や総合型地域スポーツクラブ等と連携し、障害者が気軽に参加できるスポーツ機会の提供
- 県立スポーツ施設等への障害者スポーツ用具の配置及び用具の貸出しによるスポーツ機会の拡充
- 親子で楽しめる運動プログラムやパラリンピアンなどによる講演及びスポーツ教室の実施
- 障害の有無に関わらず誰もが参加できるパラスポーツ体験会の開催



■全国や世界を目指す選手の発掘・育成

- 全国大会以上の競技大会で入賞を目指す選手の強化活動を支援
- 優秀な競技成績を有する選手を特別強化選手として指定し、活動を支援
- 有望選手を発掘し育成する取り組みの推進



■障害者スポーツ大会や合宿の誘致

- 障害者スポーツの全国大会やトップチームの合宿の誘致
- 障害者のスポーツ活動を支援する体制の充実
 - 関係機関・団体と連携して障害者のスポーツ活動を支援する体制づくり



スポーツを通じた健康増進（高知家健康パスポート事業による県民の健康づくりの推進）

令和4年度第3回日本一の健康長寿県府県知事選競選を機に修正予定

【目標値】

- 健康パスポートアプリDL件数 (R2) 18,525件 → (R5) 50,000件
- 健康パスポート活用企業数 (H30) 58社 → (R5) 500社

日常生活における歩数

- (H28) (20~64歳) 男性6,387歩、女性6,277歩 → (R5) 男性9,000歩、女性8,500歩
- (65歳以上) 男性4,572歩、女性4,459歩

1 現状

■H28.9.1スタートし、利用者の目標5万人を達成

目的：県民の健康意識のさらなる醸成と行動の定着化を目指す。

内容：①健診（検診）受診や運動施設の利用などを通じてポイントを得て健康パスポートを取得
②協力施設の利用や市町村の健康づくり事業への参加で特典が受けられる。



■新しい生活様式に対応するため、アプリへの切替

歩数や、血圧・体重の記録など、日々の行動や健康状態が見えるアプリでの運用へ切替
（※経過措置として、アプリの切り替えが困難な人に簡易版ポイントシートの提供を実施予定）

■アプリを活用した健康行動の定着が図られたところ

歩数達成によるポイント交付数は、イベント等をつきつけとして順調に増加している。

■市町村・保険者のプラットフォームとして活用

県及び市町村・保険者のプラットフォームとして活用

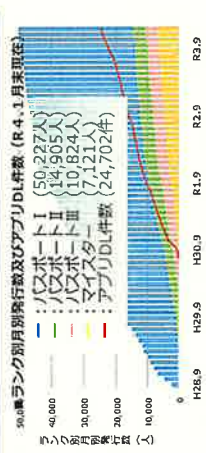
■健康経営のプラットフォームとして活用

ワークライフバランス推進企業認証（健康経営部門）

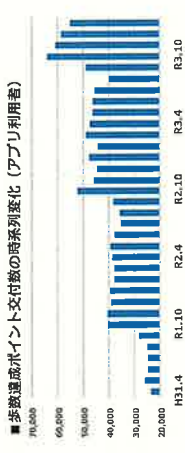
149社(R3.3月)→214社(R4.2月)

(認証必須条件に健康パスポートの活用促進)

年齢	DL率
20歳代	6.0%
30歳代	9.5%
40歳代	10.3%
50歳代	11.6%
60歳代	12.1%
70歳代	10.3%



利用種別	10月	11月	12月	1月	2月	3月
アプリのみ利用	40,139人	38,603人	496人	787人	71%	71%
アプリと連携サービス	8,901人	10,837人	49,536人	50,227人	74%	63%
アプリDL件数	24,702件					

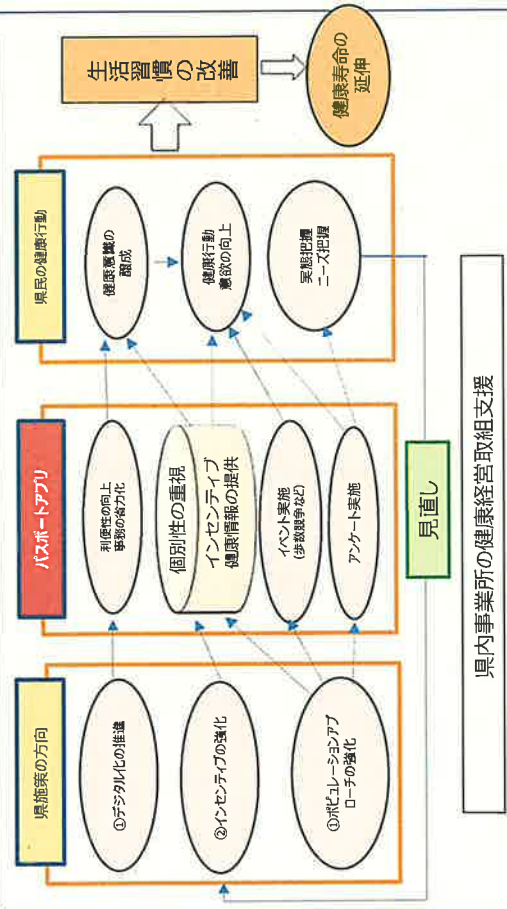


2 課題

- アプリのメリットを生かした健康パスポート事業の拡充
 - ・県民の健康意識のさらなる醸成と行動の定着化を目指す、アプリを継続・強化することで、メインターゲットである動きざかり世代を中心に健康パスポート利用者の増加を図ることが必要
 - ・アプリへの切り替えが伸び悩んでいることから、ターゲットに応じた周知・広報及びアプリへの切り替え促進が必要
 - ・個人の健康づくりに対するインセンティブ機能の充実を図ることが必要
 - ・双方の通信機能を活用した健康教育の促進(タイムリーな情報提供及びアンケート機能等)
- アプリ内でのイベントによるポピュレーションアプローチの強化
 - ・健康づくり無関心層や、健康づくりに関心はあるが一步を踏み出せていない方に対し、ウォーキングイベントの他、気軽に楽しめる催しを実施することで、健康づくりの県民運動をさらに盛り上げることが必要
- 健康経営のツールとしてアプリ版健康パスポートの活用を促進
 - ・経営者や従業員が職場の健康づくりに取り組みやすくするための仕掛けが必要

3 今後の取り組みの方向性

壮年期の死亡率の改善 ← 健康無関心層の健康意識の醸成



4 令和4年度の取り組み

- 1. 新たな生活様式に対応したデジタル化の推進**
 - ・冊子版パスポートからアプリへの切り替えを徹底するとともに、新たなアプリユーザーを増やすための広報周知
 - ・携帯電話会社と連携した携帯の新規契約及び機種変更時における健康パスポートアプリのDL勧奨実施の検討
 - ・口コミによるアプリダウンロード件数を増やすため、アプリに紹介機能及び特典の追加
- 2. アプリの魅力を高めるためのインセンティブ機能の強化**
 - ・参加施設や協賛企業との連携を強化し、行動変容を促す官民協働のインセンティブの充実を図り、健康行動に運動したポイント取得のルールづくりとアプリの改修検討
 - ・引き続き、パスポート提示による特典を増やすことに加え、新たに個人に発信される「お得」（例：クーポン等）に係るインセンティブ機能の強化
- 3. アプリを利用した県下一体的なイベントによるポピュレーションアプローチの強化**
 - ・健康診断受診勧奨やセージや市町村イベントの発信など、個性性を重視した情報取得機会の増大
 - ・ウォーキングイベント等の競争に加え、個人が達成感を得られるイベントの定期的な開催
 - ・双方の通信によるニーズ把握や健康意識等の調査
- 4. 県内事業所の「健康経営」取組支援**
 - ・健康経営のツールとしてアプリ版健康パスポートの活用を促進するため、県内事業所の経営層や人事担当者への支援強化
 - ・健康経営アワード受賞事例をライブラリー化し、県内事業所に周知することにより、蓄積した実践知を普及

趣旨・目的

- 本県のジュニアスポーツの普及や選手育成について、県が関係団体等と連携して子ども達のスポーツの可能性をつなぎ、広げる機会を提供することにより、スポーツの裾野の拡大につなげる
- 幼児から小学低学年の子どもへ運動やスポーツを行う機会を提供したり、小学中・高学年の児童へ自分の合った競技を見つけたら競技会やスポーツ体験会を実施するなど、体を動かす機会や専門的にスポーツを始める機会を提供する
- 本県のジュニアスポーツの普及や選手育成について、県が関係団体（WPN、競技団体、民間企業等）と連携して子ども達のスポーツの可能性をつなぎ、広げる機会を提供することにより、競技力の向上につなげる
- 県内の運動能力に優れた小学生を発掘し、さらに運動能力を高めるトレーニングや競技プログラムを実施するなど、将来の有望選手を発掘・育成する取組。併せて県内競技団体へつなげる活動も行う（アスリートパスイエイ）

取組内容

マッチングプログラム

I スポーツに出会う

- 【目的】子どもと保護者が楽しく運動やスポーツに親しむプログラムを提供し、スポーツへの関心を高め、スポーツを行う子どもを増やす。
- ・対象：年中～小学3年生
 - ・内容：親子で参加する遊びを通じた運動プログラム
 - ・実施地域：東部・中部・西部（各一回ずつ）
 - I-1（あそびバ！）3回 日本トップリーグ連携機構が主催
 - I-2（遊びの広場）3回

II スポーツを始める

- 【目的】運動能力の測定と多様な競技を体験することができる機会を提供し、小学校の中・高学年の児童が専門的にスポーツを始める契機とする。
- ・対象：小学3年生～小学6年生
 - ・内容：運動能力測定会と競技体験プログラム
 - II-1（スポーツ能力測定会）2回
実施地域：中部、西部
（一社）スポーツ能力発見協会が主催する運動能力測定会
 - II-2（キッズスポーツ体験会）3回
実施地域：東部・中部・西部

III 多様な体験

- 【目的】中山間地域の小学校や総合型地域スポーツクラブ等にトップアスリートを派遣し、普段経験できないスポーツの体験を提供し、スポーツ参加の拡大につなげる。
- ・対象：小学1年生～小学6年生
 - ・内容：競技体験プログラム
 - III（小規模スポーツ体験イベント）10回
実施地域：県内各ブロック、中山間地域、中山間地域、小学校へ訪問
 - ・オリンピック、県内外トップアスリートの活用等
（高知USC、高知FD、Dリーグ、実業団など）

タレント発掘・育成事業（くろしおキッズ）

県内各地の優秀なタレントを発掘

- **ちやれんじ（選考会）**
- 対象：県内小学3年生（次年度の新4年生）及び4年生（次年度の新5年生）
 - 実施時期：ちやれんじ1（12月）、ちやれんじ2（1月）
 - 参加者：166名（R3年度）
 - 合格人数：新4年生20名程度、新5年生5名程度⇒合格率：約15%
- 《選考内容》
- ちやれんじ1 <一次選考>
新体力測定
（上体起こし、反復横跳び、握力、ボール投げ、立ち幅跳び、長座体前屈、25m走）
 - ちやれんじ2 <二次選考>
専門体力測定
（4方向ステップ、20mシャトルラン、垂直跳び、立ち5段跳び、全身反応、上肢下肢）、面接

各競技団体と連携し様々なプログラムを通じたキッズの育成

■ 育成プログラム

- 競技体験プログラム（各学年14回）全15競技
 - ・基本動作（ダンス）
 - ・アクロバット（飛び込み、トランポリン、体操）
 - ・コンバット（フェンシング、レスリング）
 - ・ゲーム（バドミントン、ラグビー、バレーボール、スナッグゴルフ、ラグビー、ハンドボール）
 - ・ターゲット（ライフル射撃）
 - ・記録（カヌー、セーリング）
- トレーニングプログラム（SAQ講師による運動能力向上トレーニング）
- 知的トレーニング（コミュニケーション、栄養、メンタル、スポーツ医学科学など）
- 保護者プログラム（保護者が参加する育成プログラム）
- 合宿プログラム
- スペシャルプログラム（オリンピック等による講話や競技体験）
- 交流プログラム（5年生のみ）※愛媛県、香川県のタレント生と交流
- 体力測定（6年生はSSSCも活用）

《R4年度所属》

- ・合計69名
- （4年：22名、5年：25名、6年：22名）
- ・13市町村から参加
- ・県内各地の優秀なタレント生が参加



R4年度くろしおキッズ
出身市町村

さらなる競技力向上に向けた強化

目的

各競技団体ごとに課題を捉えた効果的な強化を徹底するとともに、国民体育大会入賞や日本代表選手の輩出が特に期待される「全高知チーム」のさらなる強化や、スポーツ医学面からの質の高いサポートを行うことで、障害者スポーツを含めた各競技団体の組織的な育成・強化体制の充実を図り、本県の競技力を引き上げる

現状

- ・組織的な取組の強化が浸透し、系統的な指導体制が充実してきたことより、団体獲得点数の増加や国際大会等でも入賞する選手が育ってきている
- ・全国大会等において、安定して上位をねらうことができる競技団体が少なく、活動の成果が競技成績に表れていない競技団体がある
- ・スポーツ医学面から選手や指導者をサポートする体制をさらに強化する必要がある

取り組み

競技団体の実情に応じた効果的な強化

- **国民体育大会対策強化（共通）**
国民体育大会正式競技（41競技）における基本的な強化
- **特別強化選手支援（共通）**
優秀な競技成績を収めている選手を特別強化選手に指定し、日本代表選手等を目指して、さらなるレベルアップを図る取組を支援
- **全高知チーム**
 - ① **特別強化コーチ派遣**
国民体育大会入賞や日本代表選手の輩出が特に期待される競技に対して、特別強化コーチを派遣するなど「全高知チーム」による重点強化を行う
 - ② **遠征強化**
全国トップレベルのチームとの対戦による成果・実力の確認
 - **全高知チーム以外**
 - ① **ジュニア強化**
特にジュニア層の普及・育成が必要な競技団体が行う取組
 - ② **女性強化**
特に女子選手のレベルアップが必要な競技団体が行う強化
 - ③ **チーム招聘**
優秀なチームを招聘し、レベルアップを行う強化
 - ④ **アドバイザー招聘**
優秀なコーチを招聘し、高度な技術・戦術・トレーニング方法の指導に加え、組織マネジメントやネットワーク構築、情報の活用など、総合的な指導助言を行う

全高知チームによる重点強化

【全高知チーム】
競技ごとに、県内の小学生から一般までの有望選手を強化選手に指定し、年間を通して定期的に高質の高い強化練習を行うチーム

■ 認定された全高知チーム（15競技）

- ① ソフトボール ② レスリング ③ 剣道 ④ カヌー ⑤ サッカー
- ⑥ ラグビー ⑦ 水泳 ⑧ 陸上 ⑨ 卓球 ⑩ 柔道
- ⑪ バドミントン ⑫ ライフル射撃 ⑬ バドミントンボール ⑭ ソフトテニス
- ⑮ バレーボール

拡

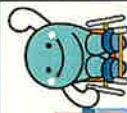
競技団体における組織的な活動の充実

- **組織的・計画的な取組の推進**
各競技団体の特性に合った強化策の実施（競技者育成プログラムにおける各競技団体の組織的な育成・強化/RPDCAの徹底）
各競技団体における適切なガバナンスの推進
- **デジタル技術の効果的な活用**
デジタル技術を効果的に活用した選手の育成
- **特別強化コーチによる指導・監督の徹底**
・特別強化コーチの指導による強化練習を徹底
・特別強化コーチの監督による強化計画の定期的な見直しを徹底
- **県外遠征等の質の高い練習の増加**
国民体育大会までの段階的な目標を達成するため、県外遠征等の質の高い練習を増加
- **県内指導者の指導力向上**
全高知チームの活動を通じた県内指導者の実践研修の充実

拡

競技団体における組織的な活動の充実

- **組織的・計画的な取組の推進**
各競技団体の特性に合った強化策の実施（競技者育成プログラムにおける各競技団体の組織的な育成・強化/RPDCAの徹底）
各競技団体における適切なガバナンスの推進
- **デジタル技術の効果的な活用**
デジタル技術を効果的に活用した選手の育成
- **特別強化コーチによる指導・監督の徹底**
・特別強化コーチの指導による強化練習を徹底
・特別強化コーチの監督による強化計画の定期的な見直しを徹底
- **県外遠征等の質の高い練習の増加**
国民体育大会までの段階的な目標を達成するため、県外遠征等の質の高い練習を増加
- **県内指導者の指導力向上**
全高知チームの活動を通じた県内指導者の実践研修の充実



障害者の競技力向上支援

■ 特別強化選手支援

優秀な競技成績を収めている選手を特別強化選手に指定し、日本代表選手等を目指して、さらなるレベルアップを図る取組を支援

■ 競技性の高い取組への支援

・障害者スポーツセンターのコーチネットワーク機能を強化し、全国大会等を目指す選手が競技レベルを高めるために行う取組を支援

■ 指導者の育成

・障害者スポーツ指導員の資格取得のための講習会の実施

拡

スポーツ医学の活用

■ 高知県スポーツ科学センター(SSC)によるスポーツ医学面からのサポート

- スポーツ医学に係る年間計画の作成を支援
- 多様なニーズに応える体制・連携の強化

・スポーツ医学の見地から様々なサポートの充実
【サポート内容】

- ① メディカルチェック ⑤ メンタルサポート
- ② 専門体力測定 ⑥ 動作分析
- ③ コンディショニングサポート ⑦ ゲーム分析
- ④ 栄養サポート



スポーツ施設・設備の整備

- **計画的な整備の実施**
・競技拠点施設等の整備・新たなスポーツ施設整備の検討
・高知県スポーツ推進交付金の活用

高知県スポーツ科学センター (SSC) によるスポーツ科学サポーターのさらなる充実

目的

スポーツ現場において行われる、健康増進や競技力向上に向けた技術練習、トレーニングが、年齢、体力、競技特性等に配慮して、合理的かつ効果的・効果的に行われるよう、スポーツ医学の見地から様々なサポートを行う

現状

SSCが競技団体と協働し、スポーツ医学活用に係る年間計画を作成することで、組織的にスポーツ医学を活用する競技団体が増加している
 SSC利用者数が増加し、多様化するニーズに応えきれない
 SSCの取組が県内全域まで周知できていない

課題

SSCと関係団体とのさらなる連携強化が必要
 SSCの体制強化が必要
 競技団体の取組が効果的になるよう支援が必要
 スポーツ医学の必要性や効果的な取組のさらなる周知が必要

業務内容

1. パフォーマンス向上支援事業

健康づくりや競技力向上の実践に対するスポーツ医学面からのサポート事業

下欄は全てサポートスタッフ；下記※表1を参照

対象者	内容	対応スタッフ
スポーツ愛好者	身長・体重、肺活量や基本的な体力の測定	SSCスタッフ
①メデイカルチェック	医療機関による内科系・整形外科系の医学的検査	医療機関医師
②専門体力測定	専門機器を活用して瞬発系や持久系などの体力の測定	SSCスタッフ
③コンディショニング(トレーニング)サポート	専門体力測定の結果等によるトレーニング・コンディショニング指導	SSCスタッフ サポートスタッフ (コアトレーニング)
④栄養サポート	体づくりや体調管理のための栄養素の摂り方などの指導・助言	サポートスタッフ (栄養)
⑤メンタルサポート	実際の食事メニューの改善 専門指導者によるメンタルコントロールサポート	サポートスタッフ (栄養) サポートスタッフ (心理)
⑥動作分析	選手の基本技術の動作を映像等で分析	SSCスタッフ サポートスタッフ (パフォーマンス分析)
⑦ゲーム分析	チームや個人のゲーム中の動きをデータ化し、映像化して分析	サポートスタッフ (パフォーマンス分析)

※表1: サポートスタッフ

2. 研修・支援事業

スポーツ指導者やスポーツ拠点のスタッフの指導力向上のために行う出張指導や研修事業

内容	対応スタッフ
スポーツ指導者やスポーツ指導者、地域のスポーツ拠点のスタッフ等に対して、コンディショニング、栄養学、心理学等の知識や実践、効果的なトレーニング方法やスポーツ障害防止などについて指導	SSC スタッフ 外部講師
出前出張事業	
指導者等 養成研修 事業	SSC スタッフ 外部講師

※1: 各競技団体のスポーツ医学担当者

3. 研究・情報活用事業

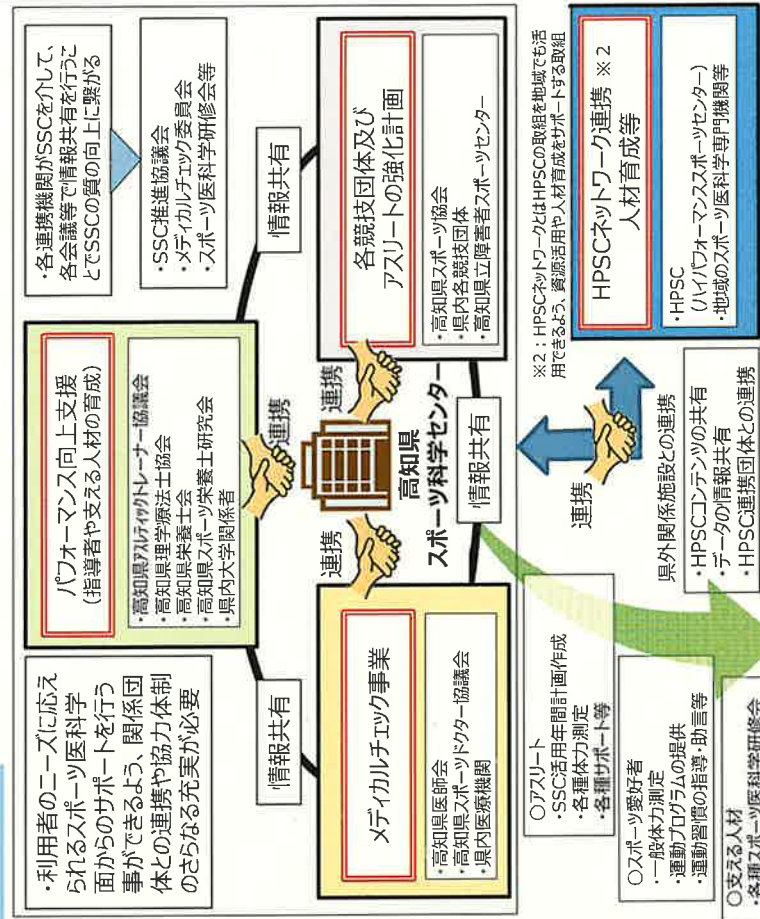
高知県の実情に応じたスポーツ科学の研究やスポーツ医学情報の収集・発信

内容	対応スタッフ
高知県の実情に応じたスポーツ科学の研究やスポーツ医学情報の収集・活用	SSC スタッフ
研究事業	
情報活用事業	SSC スタッフ

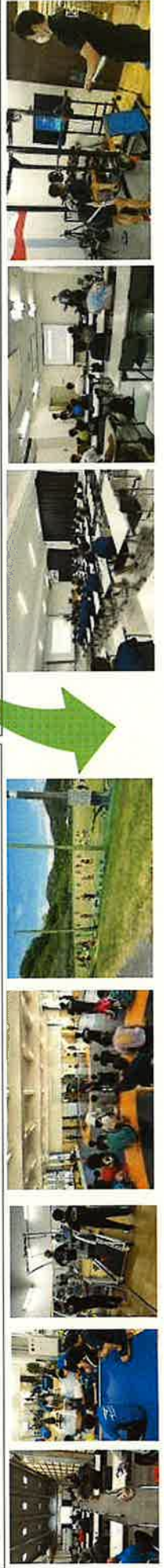


連携体制

産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実に向けて



※2: HPSCネットワークとはHPSCの取組を地域でも活用できるよう、資源活用や人材育成をサポートする取組



スポーツツーリズムによる交流人口の拡大

目標/スポーツによる県外入込数

令和4年度実績 5万人



令和9年度目標 12万人

今後の取り組み

1 プロスポーツのキャンプや大会の誘致

本県の恵まれた自然環境や施設を生かし、プロスポーツのキャンプや大会を誘致することで、県民のスポーツに対する機運醸成を図る。あわせて、交流人口の拡大や地域経済の活性化につなげる。

- (1) プロ野球
 - ・県内施設における、NPB球団（埼玉西武ライオンズ、阪神タイガース、オリックス・バファローズ、千葉ロッテマリーンズ）の春季、秋季キャンプ及びプレシーズンマッチの誘致
⇒県観光コンベンション協会、県外事務所との連携によるキャンプの継続
⇒阪神タイガースとの連携協定に基づく秋季キャンプ観戦者向けファンサービス等の強化
- (2) Jリーグ
 - ・県立春野総合運動公園陸上競技場、球技場及び令和元年にグラウンドを改修した県立青少年センターにおけるJリーグチームのキャンプ誘致
⇒県観光コンベンション協会や県外事務所との連携による誘致活動

(3) プロゴルフ

- ・カンオワールドオープンゴルフトーナメント、明治安田生命レディス、ヨコハマタイヤゴルフトーナメントの継続開催
- (4) ラグビー
 - ・ラグビー「JAPAN RUGBY LEAGUE ONE」チームの誘致



3 サイクリング観光の取組強化

本県の自然環境を生かしたスポーツアクティビティであるサイクリングを活用した観光振興のため環境整備やプロモーションを推進する。

- (1) 本県の豊かな自然環境と「ぐるっと高知サイクリングロード」を活用したサイクリングツーリズムの推進
 - ・「サイクリングアイランド四国」や「セトウチゴエ協議会」を活用した本県への誘客強化
 - ・高知県推奨サイクリングコースのプロモーションの実施
- (2) ジャパンサイクルリーグを契機とした誘客
 - ・地域と連携した公式戦の開催及び周知強化
 - ・大会開催後、誘客に向けた仕組みの構築

2 アマチュアスポーツの大会・合宿の誘致

県内スポーツ施設におけるアマチュアスポーツの合宿誘致や大会開催により、県外入込客数の増加を図る。あわせて、県外強豪チームを誘致し、県内選手の競技力向上につなげる。

- (1) ターゲットを絞った誘致の更なる強化
 - ・県観光コンベンション協会等と連携した日本代表チームやトップチームの誘致強化
 - ・県内キーパーソンのネットワークによるターゲット誘致の強化
 - ・自然環境を生かしたスポーツや若者に注目されている競技の誘致の強化
 - ・関西圏のチームや学校をターゲットとした誘致強化
- (2) 市町村や民間団体等と連携したスポーツ合宿の受入
 - ・市町村と連携した情報発信及びプロモーションによるアマチュアスポーツ合宿の誘致
- (3) 全国や海外から参加者が得られるスポーツ大会の開催及び誘致
 - ・自然環境を生かしたスポーツ大会開催支援制度や県観光コンベンション協会大会助成金を活用した誘致強化
 - ・障害者スポーツ大会の誘致



5 高知龍馬マラソンの開催

安心・安全な大会運営や、魅力ある大会づくりにより、国内外からの入込客数の誘致につなげる。スポーツツーリズムの推進に寄与する。

- また、スポーツを通じた健康づくりや県民のスポーツへの関心を高める生涯スポーツの一層の普及・振興を図る。
- (1) 安心・安全な大会づくり
- (2) 魅力ある大会づくり
- (3) フルマラソン、ファンランの実施



6 その他

地元プロスポーツチーム等が県民にさらに親しまれるよう支援する。また、広域から誘客できる新たなスポーツ大会やイベントの開催を検討する。

- (1) 地元プロチーム等への支援による活動の充実を通じた地域活性化の推進
 - ・公式戦やイベントなどの広報活動の支援
 - ・公式戦への県内外からの集客支援
- (2) 新たなスポーツ大会やイベントの誘致、開催の検討
 - ・今後のオリンピック追加競技やアーバンスポーツなど、新たなスポーツイベントの創出
 - ・県内市町村、民間団体等との情報共有や意見交換を実施することで、連携を強化することによる、スポーツツーリズムを推進（再掲）

スポーツを通じた国際交流





目的

東京2020大会やラグビーWCを契機として構築したホストタウン登録国との関係性を活用し、スポーツを通じた交流の継続・拡大を図るとともに、東京2020大会のスポーツの機運を本県のスポーツ振興のさらなる充実や多分野の活性化につなげる

現状

- ホストタウン登録国のスポーツ団体の合宿受け入れや、スポーツを紹介した相互交流の実施により関係性が構築された
- 本県出身選手がオリンピック、パラリンピックに出場し、県内におけるスポーツに対する機運が高まった
- 海外との相互交流の場において、県内の青少年にグローバルな視点を養う場を創出している

交流実績

<p>シンガポール 高知県</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツシンガポール（バドミントン・水泳）の合宿受け入れ ・オリンピック事前合宿（バドミントン）の受け入れ ・シンガポールスポーツスクールとの相互交流（卓球・バドミントン）  
<p>チェコ共和国 高知県・須崎市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チェコ代表チーム（カヌー・水泳・陸上）の合宿受け入れ ・オリンピック事前合宿（陸上・水泳・カヌー・ボート）の受け入れ ・チェコカヌー連盟と県カヌー連盟の相互交流 ・チェコソフトボール協会と県ソフトボール協会の相互交流 
<p>トンガ王国 高知県</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ラグビーWC事前合宿の受け入れ ・トンガ王国応援プロジェクトの実施 ・トンガ出身の日本代表選手によるラグビークリニックの開催 
<p>オランダ 高知県・宿毛市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オランダ自転車関係者の招聘 ・県サッカー協会指導者を派遣し研修会の実施 ・プロサッカー指導者を招聘した研修会の開催
<p>オーストラリア 高知県</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボールクイーンズランドと県ソフトボール協会の相互交流 ・学校訪問による文化交流
<p>ハンガリー 土佐町・本山町・須崎市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・在住ハンガリーカヌーコーチを通じたスポーツ交流 ・ハンガリージュニア選手の合宿受け入れ ・県カヌー協会のジュニア選手の訪問交流

今後の取組の方向性

- 海外の国や地域とのスポーツ交流の実施
 - ・ホストタウン登録国の選手や指導者との相互交流の継続・発展により、競技力向上及び異文化理解の促進を図る
 - ・海外の国や地域との継続した交流を通じて、地方創生やまちづくりにつながる取り組みを促進する
- 世界大会の事前合宿の受け入れ
 - ・国内で開催される国際大会に出場する海外の選手団による事前合宿の招致を行い、県内でのスポーツ機運の醸成及び地域・経済の活性化につなげる



スポーツにおけるデジタル技術の活用

現状・課題

- 中山間地域においてスポーツを行うための移動に負担がかかる場合がある
- 継続するコロナ禍においてスポーツを続けられる環境づくりが必要
- 「みる」「ささえる」といった多様なスタイルでスポーツを楽しむことが求められており、より気軽にスポーツに触れ合うことができる工夫が必要
- 選手の育成・強化においてデジタル技術の活用はまだ少ない

取組内容

リモートやVR・AR等を活用したスポーツ活動の推進

目的

- ・ 中山間地域における移動面の負担を軽減するとともに、広域で連携したスポーツサービスの提供を進め、スポーツ参加の拡大につなげる
- ・ VRやARなどの新たなスポーツの楽しみ方により幅広い世代のスポーツ参加につなげる

取組内容

- 総合型地域スポーツクラブ等が健康づくりや生きがいづくりに向けて、リモート機器を活用したスポーツ機会を提供する取り組みを支援する
- 地域のスポーツ指導者等の指導力の向上を図るために大学等と連携したリモートによるスポーツ指導や研修を実施する
- VRやARを活用した新たな方法で楽しめる機会の提供

期待される効果

- コロナ禍におけるスポーツ活動の継続・拡大
- 中山間地域における多様なスポーツサービスの拡充
- スポーツの新たな楽しみ方の拡充によるスポーツへの関心の高まり



スポーツ情報の発信・活用の強化

目的

- ・ スポーツ情報の発信を強化し、県内外のより多くの方が本県のスポーツを知る、スポーツに触れる、スポーツをすることにつなげる

取組内容

- スポーツ施設やスポーツイベント、スポーツサークルなどの県内スポーツ関連情報を発信するサイト（こうちでスポーツ/こうちスポーツNAVI）を活用した情報発信
- 県内各地のスポーツツーリズムの情報を一元的に発信するサイト（スポンサーKOCCHI）を活用した情報発信及びプロモーションの実施

期待される効果

- 県内のスポーツ施設、スポーツイベント、スポーツサークル等の検索が簡易になり、スポーツに出会う機械の増加によるスポーツ参加の拡大
- 本県の魅力的かつ旬なスポーツ情報の提供により、県内への誘客増加や県内のスポーツによる交流人口の拡大



競技力向上に向けたデジタル機器の活用

目的

- ・ 大会の動画配信により、リアルタイムでトップコーチから指導が受けられとともに、試合における技術や戦術の分析につなげ競技力の向上を図る
- ・ 競技団体やスポーツ科学センターにおけるデジタル技術の活用により、効果的な練習やスポーツ科学サポートの実践につなげる

取組内容

- 各種スポーツ大会の動画の配信
- 競技団体における技術や戦術の向上につながるデジタル機器の活用の促進
- 高知県スポーツ科学センターにおけるデジタル機器のさらなる活用
 - ・ 短距離走のタイムをワイヤレスで自動かつ正確に測定できる機器
 - ・ 自転車こぎ運動により心肺機能等を評価する機器



期待される効果

- 試合直後にリアルタイムでコーチから指導が受けられることによる選手の競技力の向上
- 強化選手以外の選手や指導者の指導力の向上
- より詳細に個々の体力を把握することによる競技力向上につながるトレーニングの推進

目的

- ・ スポーツ医学のリモートの研修やサポートを実施し、指導者等の指導力の向上を図るとともに、スポーツ医学の活用の増加を図る

取組内容

- 高知県スポーツ科学センターが行うリモートによるスポーツ医学研修やトレーニング指導等の実施
- 高知県スポーツ科学センターにおけるデジタル機器のさらなる活用
 - ・ 立位が困難なパラアスリートなどの体組成を仰臥位で測定する機器
 - ・ ハレロビン量を推定しコンディションをモニタリングできる機器
 - ・ ウェイトを持ち上げる速度をモニタリングするための機器

期待される効果

- 障害のある方の身体の状態が測定可能になることによる障害者スポーツの競技力向上
- 運動中の身体への負荷の状態や運動の質を見える化することによる、個々に応じた効果的・効率的なトレーニングサポート



■ **持続可能な子どもスポーツ環境づくりに向けて市町村ごとに関係者が連携して対応する体制づくり**

■ **市町村の枠を超えて広域で連携する体制づくり**

取組内容

- **市町村の関係者が連携して対応する体制づくり**
 - ・子どものスポーツ環境づくりについて、関係者が検討する協議会を設置
 - ・協議会の運営や取りまとめを行うコーディネーターを配置
 - ・協議会でまとめた対策を実施

(例)協議会メンバー
 ・教育委員会 ・学校 ・地域スポーツクラブ
 ・スポーツ推進委員 ・PTA ・地元企業 等

○ **広域で連携する体制づくり**

- ・県内6ブロックにおいて広域的な拠点（広域スポーツハブ）を設置
- ※市町村の関係者で構成する促進委員会を設置
- ・複数の市町村が連携する取組を推進



■ **県内スポーツを企業が支援する体制づくり**

取組内容

- **選手や指導者を県内企業に受け入れる仕組みづくり**
 - ・有望なアスリートやスポーツ指導者と県内企業をマッチングする取組の実施

企業 × アスリート・指導者

○ **企業関係者で構成する本県スポーツを支援する協議会の取組の推進**

- ・上記マッチングの取組に賛同する企業を中心に、本県のスポーツ振興に寄与する取組を検討する協議会を運営

■ **障害者スポーツにおいて競技スポーツ選手の育成や強化活動などを支援する体制づくり**

取組内容

- **競技スポーツに取り組み障害者の支援体制の充実**
 - ・障害者スポーツ選手の発掘・育成・強化活動や指導者の育成、大会の開催など、健全者の取組と同様に支援する体制づくりに向けた検討及び対策の実施



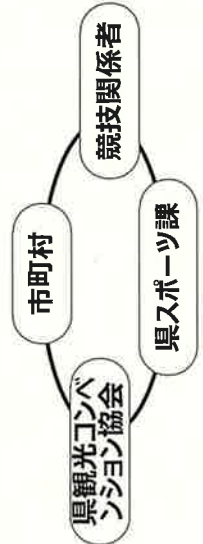
多様な主体の連携



■ **スポーツツーリズムに関する市町村や関係団体との連携強化**

取組内容

- **スポーツツーリズムに関する市町村担当者会を実施**
 - ・市町村の実情や意向に応じたスポーツツーリズムの取り組みが効果的に進められるよう、市町村担当者会における情報共有や意見交換を実施する

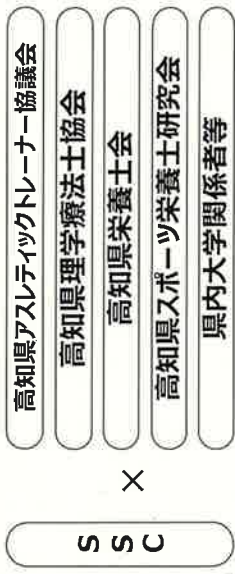


■ **スポーツ医科学面から選手や指導者をサポートする体制の強化**

取組内容

- **高知県スポーツ科学センター（SSC）への外部サポートスタッフの協力体制の強化**
 - ・新たに外部サポートスタッフとしての協力を増やし、スポーツ医科学サポートの充実を図る

<追加協力を求める主な関係団体・関係者>



■ **スポーツに関わる多様な関係者の連携体制の充実**

取組内容

- **若者とスポーツ関係団体等が意見交換する場づくり**
 - ・高校生や大学生などの若者とスポーツを推進する多様な主体が集い、意見交換や情報共有する場の充実
 - ・高知県内でスポーツを学ぶ高校生・大学生と、スポーツの発展・振興に取り組んでいる人々が、ともに学び交流する目的で設立された「高知県スポーツサミット」への参加団体の拡大

<主な参加者>



○ **スポーツに関する連携協定による取組の推進**

- ・スポーツに関する連携協定を締結している機関、事業者、団体等との連携によるスポーツ機会の提供などの取り組みを実施
- (パナソニック・大阪体育大学・阪神タイガース)

指標一覽

指標一覧

1 スポーツ参加の拡大

施策の方向性	令和9年度末の 目指す姿	定量的な目標		
		指標	目標値	改定当初
(1) 身近な地域 でスポーツに親しめる 場の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ●運動やスポーツが好きな子どもが増加している ●地域ごとのスポーツ参加の拡大している 	子どものスポーツ環境づくりについて関係者が連携して対応する体制をつくり取り組んでいる市町村の数	34	0
		広域で連携した取組が展開できているエリアの数	6	0
		マッチングプログラムの参加者数 (R5から前年度比10%増の累計)	9,000人	1,420人
		子どもの体力・運動習慣の向上	小中学生の男女とも 全国平均を上回る	R4年度 小学5年男子:52.7% (52.2%) 小学5年女子:54.8% (54.3%) 中学2年男子:41.2% (41.0%) 中学2年女子:48.2% (47.4%) ※()は全国平均
		各地域のスポーツ実施率	R4と比較して全ての地域 でスポーツ実施率が向上 する	R3年度 安芸地区:40.7% 香美香南地区:48.2% 高知市:51.8% 土長南国地区:54.3% 吾川地区:49.2% 高岡地区:53.8% 幡多地区:50.3%
		女性の週1回以上のスポーツ実施率	65%	50%
		「スポーツNAVI」のページビュー数	11万	8万
		「スポるKOCHI」のセッション数	毎年2,400セッション以上	—
(2) 担い手の育成 及び活動の活性化	●地域地域でスポーツを支援する人材の育成・確保が進んでいる	有資格指導者の数	R4から10%増	R4年度 スタートコーチ:132人 コーチ:1,419人
		育成したボランティアリーダーの数	50人	0人
		スポーツサミットを通して若者から提言された取組の数	10	0

指標一覧

1 スポーツ参加の拡大

施策の方向性	令和9年度末の目指す姿	定量的な目標		
		指標	目標値	改定当初
(3) 障害者がスポーツに親しめる環境づくり	●障害者のスポーツ参加が拡大している	障害者がスポーツ活動ができる団体数	36	26
		障害者スポーツセンターと連携し地域の活動支援を行う体制ができていないエリアの数	6	1
		発掘の取組により中央競技団体に登録した選手数	25人	0人
		中央競技団体への登録者数	220人	192人
		誘致した大会数 (R5からの累積数)	5	1
(4) スポーツにおける安心・安全の確保	●安心・安全にスポーツに親しむことができる環境づくりが進んでいる	研修会の参加者数	R5からR9まで 毎年50名以上	—
(5) デジタル技術の活用	●スポーツにおけるデジタル技術の活用が進んでいる	リモートによる活動への参加者数	10,840人	6,730人
		「スポーツNAVI」のページビュー数	11万	8万
		「スポるKOCHI」のセッション数	毎年2,400セッション以上	—
(6) スポーツを通じた健康増進や生きがいづくり	●個人や地域で健康づくりや生きがいづくりにつながる取り組みが増加している	健康パスポートアプリDL件数	※	※
		日常生活における歩数	※	※
		各地域のスポーツ実施率	R4と比較して全ての地域でスポーツ実施率が向上	R3年度 安芸地区:40.7% 香美香南地区:48.2% 高知市:51.8% 土長南国地区:54.3% 吾川地区:49.2% 高岡地区:53.8% 幡多地区:50.3%
(7) 産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実	●スポーツ参加の拡大に向けて持続可能な効果的なスポーツの推進体制が充実している	子どものスポーツ環境づくりについて関係者が連携して対応する体制をつくり取り組んでいる市町村の数	34	0
		広域で連携した取組が展開できているエリアの数	6	0
		多様な主体の意見交換や情報共有する場への参加団体数	10	0
		連携協定による活動数	R4と比較して20%増加	※

2 競技力の向上

施策の方向性	令和4年度末の 目指す姿	定量的な目標		
		指標	目標値	改定当初
(1) 全国や世界を目指す選手の育成	<ul style="list-style-type: none"> ●全国や世界の舞台で活躍する選手が多く ●障害者のスポーツ活動において全国や世界を目指す選手が増えている 	全国中学校体育大会の入賞競技数	8	6
		全国高等学校総合体育大会の入賞競技数	15	10
		スポーツ医科学を組織的に活用している競技団体数	30	20
		高知くろしおキッズに応募する子どもの数	200人	166人
		障害者スポーツの発掘事業で選抜した選手数	25人	0人
(2) 担い手の育成及び活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ●競技力向上に携わるスポーツ指導者が増加している ●スポーツ指導者の指導力が向上している 	有資格指導者の数	R4から10%増	R4年度 スタートコーチ:132人 コーチ:1,419人
		全高知チームにおける実践研修の実施状況	全ての全高知チームで実践研修が行われている	-
		高知県スポーツ科学センターによる研修会の参加者数	毎年50名以上	-
(3) デジタル技術の活用	●スポーツにおけるデジタル技術の活用が進んでいる	リモートによる活動への参加者数	10,840人	6,730人
(4) 産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実	●競技力の向上につながる持続可能で効果的な支援体制が充実している	SSCと連携する外部スタッフ数	45人	35人

3 スポーツを通じた活力ある県づくり

施策の方向性	令和9年度末の 目指す姿	定量的な目標		
		指標	目標値	改定当初
(1) スポーツを通じた経済・地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツによる県内の交流人口が拡大している ●スポーツによる県外からの誘客が増加している 	プロスポーツ・トップチームの誘致による県外からの入込客数	8万人	3.2万人
		アマチュアスポーツ合宿の誘致による県外からの入込客数	1万人	4千人
		スポーツ大会による県外からの入込客数	3万人	1.4万人
		地元プロチームのホーム戦の県内外からの入込客数	○高知FD：1.2万人 ○高知USC：2万人	○高知FD:9,052人 ○高知USC:11,490人
(3) デジタル技術の活用	●スポーツにおけるデジタル技術の活用が進んでいる	「スポーツNAVI」のページビュー数	11万	8万
		「スポるKOCHI」のセッション数	毎年2,400セッション以上	-

第5章

計画の進捗管理

第5章 計画の進捗管理

1.進捗管理

本計画は、本県のスポーツ振興施策を組織横断的に一体となって推進するため、知事を本部長に庁内に設置した「高知県スポーツ振興推進本部」と県内の産学官民が連携・協力して本県のスポーツ振興をより強力に推進していくことを目的に、2つの専門部会を設置した「高知県スポーツ振興県民会議」(審議会)が両輪となって、計画の検証・評価を行い、計画の着実な実行に向けて進捗管理を行います。

2.体制図

高知県スポーツ振興県民会議

産学官民が連携して本県全体のスポーツ振興を強力に推進

(役割)

- ・高知県スポーツ推進計画の策定・変更、検証・評価
- ・スポーツ振興への協力・支援

(構成員)

スポーツ関係団体、商工業、企業スポーツ、交通運輸、生涯スポーツ、スポーツツーリズム、障害者スポーツ、市町村長代表者、有識者

専門部会

スポーツ振興に関する専門分野を調査・審議・提案する

- 地域スポーツ推進部会
- 競技力向上部会

高知県スポーツ振興推進本部

本県のスポーツ振興施策を組織横断的に一体となって推進

(役割)

- ・「高知県スポーツ推進計画」の着実な実行とPDCAサイクルの徹底

(構成員)

本部長	知事
副本部長	副知事
本部次長	文化生活的スポーツ部長
本部員	総務部長
本部員	健康政策部長
本部員	子ども・福祉政策部長
本部員	産業振興推進部長
本部員	中山間振興・交通部長
本部員	商工労働部長
本部員	観光振興部長
本部員	土木部長
本部員	教育長
オブザーバー	(公財)高知県観光コンベンション協会 専務理事



高知県
Kochi Prefecture

文化生活スポーツ部スポーツ課
高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号(高知県庁西庁舎)
電話:088-821-4712(直通) FAX:088-821-4716